

エンドロールはお静かに

竹内介

登場人物一覧

山本笑吉(68歳)・・・おもちゃのヤマモトヤ創業者。

山本勝代(67歳)・・・笑吉の妻

山本明広(39歳)・・・笑吉の長男。自称アーティスト。

山本智徳(35歳)・・・笑吉の次男。ヤマモトヤの社員

山本寿々(32歳)・・・笑吉の長女。医師。

水本麻美(25歳)・・・笑吉の秘書の一人。

前田(32歳)・・・ヤマモトヤ社員。お調子者

小島(30歳)・・・ヤマモトヤ社員。デザイン担当

内田(62歳)・・・山本家に使える家政婦

斎藤(30歳)・・・山内出版の編集者。笑吉の自伝を担当している。

今村(21歳)・・・ラピート運輸の新人。

野村(59歳)・・・保険金を得るために死にたかった男

江藤寛(25歳)・・・バイクで事故を起こし死んだ男

川口えり(20歳)・・・江藤と付き合っている。

ワルキューレ・・・ベテランのお迎え

ホクト・・・肉体と魂をつなぐ赤い糸を見つけるのが得意なお迎え

ナント・・・新人のお迎え

魂たち・・・お迎え達に成仏への道を案内される若い死者たち

※舞台上には笑吉の肉体がある

初秋。大きな屋敷の一室。おもちゃのヤマモトや創業者の山本笑吉が床に臥している。ボン、と柱時計が鐘を打つ。笑吉の寝所にある柱時計は午後一時を指している。笑吉の娘で医師である寿々が脈をとったりする様子を、笑吉の妻である勝代が不安げにみている。寿々は一通りの診察を終える。

勝代 どう？

寿々 ん：変わってない。やっぱり昨日のうちに連絡しといてよかった

勝代 そう：

寿々 何時くらいになるって言った？

勝代 アメリカの裕次郎さんは別として、みんな今晚には着くって

寿々 五時とか六時ってこと？

勝代 そりゃ、夜って言うんだから：

家の電話が鳴る。

勝代 はい：ああ、ありがとうございます：うーん：どうでしょう：はい、着いたら：はい、はい（電話を切る）

寿々 誰？

勝代 亀太郎さん。ほら、北海道の。今空港に着いたから六時くらいになるって

寿々 そう：

勝代 もたない？

寿々 うん：難しいと思う：

勝代 ：

二人はしみりとする。その空気を打ち壊すように笑吉の秘書の水本がぶっきらぼうに入ってくる。携帯電話でメールを打っている。

水本 ごめんなさい、今の電話とったほうがよかったですか？

勝代 いいのいいの、親戚だったから。家の電話は私がとるから麻美ちゃんはゆつくりしてて

水本 はい。お二人とも、そろそろ昼ごはん食べませんか？

勝代 ごめんね、もうちよっと待っていてくれる？

水本 えー、早くして下さいよ。休憩はお昼終わってからだって内田さんが言うんですよ

内田が現れる

内田 水本さん、いいのよ。昼ごはんは私がやるから、あなたは休んで。すみません、奥様。いつでも用意できますから申しつけて下さい

勝代 ごめんなさい、片付けてもらってもいいわよ

笑吉の息子の智徳と前田、小島が現れる。三人ともヤマモトヤの工場の作業服である。

勝代 あら、智徳！前田さんに小島さんも！

寿々 仕事は？

智徳 みんなに気づかれちゃってさ。父さんが危ないの

前田 そりや顔に書いてるんですけど

智徳 俺はいいって言ったんだけど、家に帰れって

小島 僕達も水本さんだけじゃ頼りないから手伝ってこいって

水本 どうゆう意味よ。あ、電話だ

水本は笑吉の携帯を取り出す。

前田 そのまんまの意味だって

水本 もしもーし、もしもーし

智徳 どうしたの？

水本 無言電話

智徳 え、どっちに？誰から？

水本 笑吉さんの電話に、公衆電話から

智徳 気味悪いな。母さん、父さんの様子は？

勝代 変わりないわ

寿々 私、昼ごはん頂こうかな？

智徳 俺もなんかある？

勝代 私があるから、食べて。二人も食べる？

小島 いや、僕達がいいです。びしばし使って下さい

水本 びしばしやるほど用事ないよ

内田 ……

電話が鳴る。

内田が電話を取ろうとする。

水本 内田さん、勝代さんが電話とるんですよ。何でもしやしやりでないで下さい

内田 ……

勝代が電話に出る。

勝代 え？ああ…いえいえ。はい。ええ！ありがとうございます…いえいえ、はい  
寿々 誰？

勝代 また亀太郎さん。お見舞いのとうもろこし送ったから今日着く頃だって

水元 トウモロコシ！笑吉さんの大好物！

勝代 ええ…

水本 なら、今晚は焼きトウモロコシにしましょ！楽しみ！

内田 水本さん！

水本 じゃあご飯あたたためてきますね！焼トウモロコシ、焼トウモロコシ

水本は部屋を出て行く。

内田 すみません、奥様、こんな時なのに水本さんったら無神経で：私から言っておきま  
す

勝代 いいわよ、私達も麻美ちゃん見てたら気持ちが悪くなるの

前田 間違はなく誤解されてますけど、水本は何も考えてないだけだから

寿々 内田さんこそ悲しい顔しないで、いつも通り元気でいてください

寿々と智徳は奥の部屋に移動する。

内田 そうおっしゃいまして、二十年もお仕えしています旦那さまがこんなになって：  
明るい顔なんてできません。奥様、お部屋は分かれてしまいましたが、お客様用のお布  
団は十五人分用意致しました。今からお客様用の食器を全部洗っておきますので、必要  
があればいつでもお申し付け下さい

勝代 ありがとうございます。ごめんなさいね、内田さんばかりにやらせちゃって。私も手伝いまし  
ようか？

内田 とんでもないです！奥様は旦那様のおそばにいらしてください。何かあれば水本さ  
んに手伝って頂きます

前田 僕達もいますよ

内田 いいんです、水本さんで

内田は出て行く

前田 おかみさん、僕らどうしましょ？

勝代 そうね、麻美ちゃん手伝ってあげて。私のことはいいから

前田 はい

前田と小島も出て行き、部屋には勝代だけが残る。

場所変わって山本家の客室。大きなテーブルが置かれていて、その上にはヤマモトヤの  
おもちゃがいくつか並べられている。智徳と寿々が座っている。

智徳 父さん、やっぱり今日なの

寿々 うん：脈が落ちてるし：

智徳 そうか：これ以上延ばすことは：しないんだよな？

寿々 うん。そういう約束だからね

智徳 寿々が医者で、よかったよな。在宅ホスピスなんて、家族に医者がいなければな

なかできないもんな

寿々 そうね：家で死にたいっていう人はお父さんだけじゃないと思うけど、難しいね  
智徳 父さんは幸せ者だよ。ありがとな、寿々

前田と小島が手伝いに来たので、台所から水本が出てくる。

水本 あつたためたらそこのお皿に分けて下さいね。あ、寿々さん、さつき笑吉さん見てて  
思っただけですけど

寿々 何？

水本 お医者さんて、何時何分に死んだって言うじゃないですか。死んだ瞬間って何なん  
ですか？

笑吉がむっくりと起き上がる。顔には精気があり、工場の作業着を着込んでいる。笑吉  
は苦痛から解放されたことに驚いている。ふと気付くとカバンを手に持っている。笑吉は  
あたりの様子を調べる。

寿々 難しいこと聞くわね：心臓と呼吸が止まって瞳孔が開いたら死亡って決まってるん  
だけ。脳死とは何か、移植が許されるのはなぜか、考え出したら誰にもわからない  
水本 え、でもお医者さんが決めるんでしょ？

寿々 私達が言う時刻は、死亡を確認した時刻。ドラマでもよくあるじゃない、何時何分  
に御臨終ですっていうの。あんなのいつでもいいのよ

前田は小島に仕事を任せて台所から出てくる。

前田 いつでもいいんですか？

寿々 もちろん適当になってわけじゃないわよ。死亡時刻っていうのは、医師が死を確認し  
た時刻なの。死という儀式の中で医師は演出家。親族の方が泣いて、泣いて、泣きやん  
だ時にそっと死亡を確認する。考えてもみなさいよ、生きてると死んでるって何が違う  
の？死んだ瞬間なんて、決められるものでもないし、決める必要のあるものじゃない。  
医師はただ、けじめをつけるだけよ

前田 なるほど

水本 笑吉さんの場合は、寿々さんがけじめをつけるってことですか

寿々 …うん

智徳 水本さん：

水本 何よ？

智徳はため息をつく。遠くで改造バイクの走る音がする。

小島 できたよー！前田さんも手伝ってよ！

小島が料理を持ってくる。寿々と智徳は食事を始める。水本は智徳の食事の様子を見て  
いる。

笑吉は勝代の様子や、客間に飾られたおもちゃなどを見ている。

家の前を、ナントが魂1を連れて現れる。逆側から、今村が困った表情で段ボールの箱  
を持って現れる。

ナン 向こうにね、行ったら天国に行けますからね。もう少し待ってて下さいね

魂1 天国に行ったら：もう痛くない？

ナン 今も痛くないでしょ？たぶん大丈夫ですよ

魂1 たぶんって何？

ナン えーっと、こっちだったよね：たしか

魂1 たしかって何？

笑吉 あの：

笑吉が声をかけようとするが、ナント達は何も気づかずに去っていく。

どうしたものかと腰かける笑吉。そこにワルキューレが威勢よく現れる。

ワル こんにちは！山本笑吉さんでいらっしやいますね？

笑吉 ん？ああ

ワル はじめまして、私、ワルキューレと申します。これから笑吉さんのお世話をさせて  
頂きます。そうですね：とりあえず：おかけになってください

笑吉とワルキューレは腰かける。

笑吉 私は、あれだよ

ワル ノンノン、いきなりそんなこと聞いちやダメですよ。これ、飲みませんか？

ワルキューレはカバンから赤玉を取り出す。

ワル コマツリキュールさんに頂きました！ありがとうございます！

笑吉 あ、コマツさんの？：たしか二週間くらい前に亡くなったって言ったような

ワル そうですよ。そのコマツさんに頂いたんですよ。コップですみませんけど、どうぞ

笑吉 ありがとうございます

ワル 笑吉さんと呼ばせて頂いてもいいですか？

笑吉 ああ。君は：ワ、ワ：？

ワル ワルキューレです

笑吉 ワルキューレさん、私は：

ワル ノンノン、ゆっくりお話ししましょう。笑吉さんは、どんなお仕事をされていたん  
ですか？

笑吉 おもちゃ屋の社長だよ

ワル おもちゃ屋さんですか。クリスマスからお正月は大忙しですね！

笑吉 違う違う、うちはおもちゃを作る会社だよ。積み木とか、ボードゲームとか

ワル ああ、失礼しました。おもちゃを作る、社長さんですか。おもちゃ：

笑吉 あんまりピンとこないんだろ？

ワル すみません：

笑吉 仕方ない：時代が違うんだ：。ワルキューレさんは外で思いつき遊んだことある？

ワル 私、ないんですよ。ずっと家にいましたから

笑吉 今の時代、そういう子が多いんだよ。外で遊んだこともない子がリアルさにこだわったゲームで遊んで、どこで想像力がふくらむ？夢が膨らむ？だから現実とゲームの世界がごっちゃになっておかしくなるんだよ。私が子供の頃は棒つきれ一つがいくらでも変化した。時にはバット、時には剣、地面にあれば断崖絶壁にもなるし安全地帯にもなった。わかる？

ワル え、ええ：

笑吉 ヤマトヤのおもちゃはそういうおもちゃなんだ。夢と想像力を膨らませる。これで遊んだ子供は変な大人にならない

ワル お子様はいらっしゃるんですか？

笑吉 私か？三人：まあ二人みたいなものだな

ワル どうしてですか？

笑吉 長男の奴、うちの工場で働かせてやったのに、十年前に家を出て、行方知れずなんだよ。電話の一つもかけてこない。全く、どうしてあんな恩知らずになったのか

ワル 笑吉さんのおもちゃで遊んでたのにな？

笑吉 想像力が膨らみすぎたんだ。長男以外はまともだよ。医者の娘と、ヤマトヤの将来を担う次男だ

ワル 御立派ですね

笑吉は昼食中の寿々達の所に行く。

笑吉 娘は私のそばにいたいからと、わざわざ近くの病院で働いている。こいつは（智徳）

よその会社に就職したんだが、私のようになりたいたいとそこをやめてヤマトヤに入って

きた。こいつらだって（前田と小島）仕事を一から教えたから息子みたいなものだ

ワル お孫さんは？

笑吉 こいつら仕事に熱心だからそっこのほうはさっぱりなんだ。特に次男は真面目一徹で誰に似たんだか：結婚式、孫の顔：言っても仕方がないが、見たかったなあ

ワル あちらにいらっしゃるのが奥様ですか？

笑吉 ああ。いい女だよ。この一ヶ月あいつに介護されて、改めて惚れたよ

ワル どちらでお知り合いに？

笑吉 いいだろ、そんなのは

ワル えー知りたい！教えて下さいよ

笑吉　：取引先の会社で働いてたんだ  
ワル　どちらから声をかけたんですか？

笑吉　それこそいいだろ

ワル　そんな、知りたいじゃないですかー

笑吉　：私だよ

ワル　ワーオ

笑吉　勇気がいったんだぞ、下手なことになって仕事に支障が出たらって：でも人を愛するってのは何もかも超えていくんだ：はい、この話題はおしまい！それより今のことだよ！

ワル　今のこと？

笑吉　そうだよ、私はどうなったんだ！

ワル　はい：笑吉さん、若いですね：八十まで生きても当たり前前の世の中、お辛いですね  
笑吉　そういうのはいいから！結局あなたは何者ですか？

ワル　そこまでお聞きになるなら仕方がありません。覚悟して聞いて下さい！

ワル キューレはポーズをとる。

ワル　私は、間もなくお亡くなりになる笑吉さんをお迎えに来た、お迎えさんなのです！  
笑吉　それはわかってます

あまりにも落ち着いた笑吉の態度にワルキューレは動揺する。

ワル　：あ、信じてないんでしょ？ほら。私、死ぬ人以外には見えないんです。ほら、ほーら

食事を取る面々の間をワルキューレは移動しちよっかいをかける。

笑吉　信じてますって。というより、私まだ死んでないんですか？

ワル　ええ

笑吉　驚きだな。もう死んだと思ってた

ワル　お若いのに後悔はないですか？

笑吉　毎日を全力で生きているとね、失敗はしても後悔はないんだ

ワル　はあ：御立派ですね：

笑吉　そうですね？そりゃ八十まで生きられるなら生きたいが、欲を言い出せば人生なんてキリがない。私を愛してくれる妻、娘、息子、部下達。私の人生は幸せだった、これ以上望んだりしたらバチが当たる

ワル　今日お亡くなりになることも：

笑吉　仕方がないことだ。謹んでお受けいたします

ワル　人生を達観してらっしゃいますね。仕事が楽で助かります

笑吉　それだよ、ワルキューレさんのお仕事は何なんだ？

ワル 簡単に説明しますと、まず、今の笑吉さんは精神の塊なんですよ。いわゆる魂つてやつです

笑吉 どうしてこんな恰好なんだ？工場の作業着だよ  
ワル 笑吉さんのお気持ちはその姿なんです。だからお顔も、実際よりはるかにお元氣じゃないですか

笑吉 確かに体が軽い。五十くらいに戻ったみたいだ。工場に行きたくなるね  
ワル 私の仕事は、その魂を成仏させることなんです。笑吉さんは、まだ肉体と赤い糸で結ばれていると思うんですが：

ワル キューレは見えないほど細くなった糸を見つける。なかなか見つけられない。

ワル これです。この赤い糸が：そうですね、あと少ししたら自然に切れると思うんですが、切れたら体を動かすことができなくなります。魂から幽霊になるわけです。私達はその幽霊さんが迷子になる前に成仏させるのが仕事です。まあ成仏する光があつてそこに入ってもらうだけですけど

笑吉 なるほど

ワル カバンの中、何が入ってました？

笑吉はカバンをあける。

笑吉 これ、よく使ったなあ：：うわ、カタカタ忍者じゃないか。私が十八の時に作った奴だ

ワル それだけ思いが強いんですよ

笑吉 確かに。最初のヒット商品だからな。他にも色々あるな：ベーゴマに、メンコ、これは：ゼロ戦か。こういうのは持っていくものなんですか？

ワル お任せします。私達に預けて頂いても構いません。これも現実にあるものじゃないですから。笑吉さんの思いがそういう形になっているんです

笑吉 じゃあこれも：

ワル 私がコマツさんをお見送りしたんです。御近所さんにお世話になったからみんなにふるまってくれて

笑吉 なるほど：イキなことしますね。コマツさんのためにも、もう少し飲みましようかワル ええ

笑吉 女房の横でこんな可愛い人と飲むとは、いい気分だね。ちよつとドキドキするなワル 見えないから御安心下さい。社長さんなら、さぞかしモテたんでしょうね？

笑吉 まま、ないことはないが、あいつが疑り深いからね。本当に隠れてこっそりちよこつとね。ワル キューレちゃんは彼氏いないの？

ワル そんなこと言つて。奥さんにはバレなかつたんですか？

笑吉 そりゃ、上手くやったからね：警戒に警戒を重ねてこっそり面会だ。まあ私はいわゆる男臭い男だからね、本能のままに行動したい時があるんだよ。ガオーつて

ワル 確かに笑吉さん男らしいですよ！男のくせに、死にたくない！つてダダをこねる人

も最近多いんですよ。笑吉さんみたいな方、珍しいです

笑吉 男のくせに情けない。ダダをこねる？そんな恥ずかしいことできますかって！

ワル ありがとうございます。これ飲み終わったら行きましょうか

笑吉 えー、もう少しワルキューレちゃんと飲みたいなー。これ、どう？君にあげちゃおうっかな？

ワル どうやって遊ぶんですか？

笑吉はカタカタのやり方をワルキューレに教える。ワルキューレは遊ぶ。笑吉は遊ぶワルキューレを見ている。

ピンポンと呼び鈴が鳴る。

水本 勝代さん、山内出版の斎藤っていう人が来てますけど。笑吉さんに用があるんですけど

勝代 あー、そうだったそうだった。電話するの忘れてたわ：入って頂いて

笑吉 斎藤ちゃんか：可愛い子だよ。ちよっかいだそうと思っただけだね、断られたワル もう、何やってんですか。今の人も綺麗じゃないですか

笑吉 ダメダメ！あの子はお得意さんの娘さんなんだ。お転婆で手に負えないから預けさせてくれて頼まれて：さすがにな

水本は玄関に戻り斎藤を連れてくる。斎藤は本の入った紙袋を抱えている。

斎藤 お世話になっていきます、山内出版の斎藤です。おじやま致します：笑吉さん、お休

み中ですか？

勝代 昨日から調子がよくなくて：危ないの

斎藤 ええっ！すみません、そんな大変な時に：

勝代 こっちこそごめんなさい。予定は聞いてたんだけど、ドタバタしてて

水本 斎藤さん、さっき公衆電話から電話しました？

斎藤 いいえ、してません：今日、本ができたから見て頂こうと思ったんです

勝代 そうなんだ：あなた、本ができたって

笑吉 はい、ありがとうー

様子を見ていた前田と小島が声をかける。前田は一目で斎藤を気に入る。

前田 何の本ですか？

勝代 六十歳になった記念に書き始めたのよ。みんなには内緒で。仕事の合間にちよこちよこだから時間がかかったんだけど。小さい時の話から、ヤマモトヤを大きくしていくまでの物語。コラムみたいなのもあってね、ちよっと思ひ込みも激しいけど、面白い本よ

斎藤は本を配る

笑吉 なんか、覗き見してるみたいで面白いね

ワル ええ…（呟いて）はじめだけね…

前田 へー『笑う門には福きたる』ですか

前田達はパラパラと本をめくる

小島 あー、これ聞いたことがあります。笑吉さんの名前の話

勝代 商売人は笑顔と運が大事だから笑うに吉と書いて笑吉。お父さんも商売人だったから縁起を担いでつけたのね。小さい吉じゃありませんって、講演会でもよく言ってたわ  
笑吉 講演会はツカミが大事だからね。あれ、ウケるんだよ。いやー、斎藤ちゃん見てると癒されるなー

ワル 癒されても死にますけどね

斎藤 今回編集で参加させて頂いて、笑吉さんの…なんていうんだろ、凄みというか、信念を感じました。話してたら、私もこのままでいいんだろうかって思えてきて。結婚の心配までしてくれるんですよ。彼氏いないのかって

勝代 ええ！この人ったらみさかいがないんだから。ごめんね、ちょっとかけられたんでしょ。男臭い男に興味はないか？とか言ってる

斎藤 えーつと…

勝代 いいのよ。病気みたいなものだから

ワル 奥さん、気づいてません？

笑吉 そんなはずは…

勝代 でも口説こうとしてもね、結局は手を出せないの。私の事好きだから。手を出す勇気ないんなら、始めっから何も言うな！って思うけどね

斎藤 ハハハ

前田 笑吉さん、そんな人だったんですか？確かに可愛いですけど。あの、ふくよかな男性に興味はないですか？

笑吉 ……

勝代 何言ってるのよ、斎藤さん困ってるじゃない。その本でも一切そういうことには触れてなかったから、この人、私にはバレてないと思ってたんだろうけど。甘いわよねー。

銀座のマリちゃんとか、北新地のサキちゃんとか。全部知ってるわよ

ワル 完全にバレてますよね…

笑吉は落ち込む。

斎藤 それで勝代さん。一つ笑吉さんに決めて頂きたかったことがあるんですけど…

勝代 何？

斎藤 この本のあおり文句を二つ考えてきたんですけれど、どちらがいいですか？『これがあなたの未来を切り開く真実だ！』か『成功者に学ぶ成功の法則！』か…笑吉さんこういう状態ですし、勝代さん決めてもらえませんか？

勝代 私は素人なんだから斎藤さんが決めて下さいよ。でもこの人そんな大した人じゃないのよ。そりゃ仕事はできたけどねえ

斎藤 実は私もピンとこなくて：もつと笑吉さんを表現できる言葉があると思うんですけど：

前田 リーダーの条件はこれだ！ってのはどう？

小島 なんかそれ、聞いたことありますよ

前田 そう？リーダーって言葉がよく似合うんだよ。みんなが迷ってても、笑吉さんは迷わずに決断を下してくれるじゃない。安心感があるんだよね、任せておけば大丈夫だっていう。他にはボスとか：ドン、とか

勝代 そう？独裁者、ワンマン、理不尽、そんな感じじゃない？

笑吉 ひどくないか？

ワル 誰にでもちよっかい出すからですよ

小島 おかみさん、笑吉さん何も言えないからってひどいこと言いますね

勝代 本当のことよ。この人の尻拭いを何回したか：前田ちゃんも小島ちゃんもよく泣きごと言ってたじゃない

前田 まあ：若かったんで。高校出てすぐですもんね、ヤマモトヤさんに入ったの。工場でおかみさんが作った料理を食べて、笑吉さんにおもちや作りを一から教えてもらって：。笑吉さん厳しかったから、おかみさんに愚痴聞いてもらわなかったら確かにやめたかも

小島 そうそう、厳しかったよね。あの頃は今ほど大きくなかったし、アットホームだったよね

笑吉：

ワル いい話じゃないですか。みんな笑吉さんに感謝してるんですね。そろそろ行きましようか

笑吉 そうだね

ワル じゃあまず赤い糸を切りますから、こちらに来て下さい。手でも切れますが、ある程度離れたら自然に抜けますので

笑吉が肉体からゆっくりと離れる。

前田 そんな厳しかった笑吉さんがね：

前田は笑吉をじっと見ている。

前田 息してませんね：

勝代 何いってんのよ：ホントだ。寿々、寿々！

寿々と智徳が慌てて笑吉の部屋に来る。皆が心配そうに見守る様子を見て、笑吉は一瞬歩みを止める。思い切って最後の一步を踏み出そうとした時、そこにホクトが飛び込んでくる。

ホク 大変大変！ワルキューレさん！

ワル 何？ちよっと待ってよ！

ホク ほんと大変なんだよ！すぐそこで魂があふれてる

ワル ええ？なんで？

ホク 交通事故だよ、すごい事故！

ワル ホクトは無理なの？

ホク 昼間は予定ないけど、一人じゃ無理！数が半端ないんだって

笑吉 どんな事故なんだ？

ホク もうぐっちゃぐちゃでわからないんですけど、見た人が言っていたのは、バイクが人をはねて、転倒して、そのバイクが歩道に突っ込んで通行人をバツタバツタ。そして爆発。わかります？

笑吉 ひどい事故だというのはわかった

ホク って、ワオ！あなた誰ですか？お迎えじゃないでしょ

ワル お客様よ。山本笑吉様。悪いけどホクト、任せられない？

ホク 僕だけじゃ絶対無理です。若い子もいるからすぐ行方不明になりますよ。最近不祥事続きで、部長めちゃくちゃ機嫌悪いでしょ？生きてる子を成仏させたり、魂を行方不明にさせたりしたら僕ら絶対怒られるよ。ひどい言葉で

ワル 私を巻き込まないでよ

笑吉 ああ、なるほど。上下関係とか、ルールはやっぱりあるんだ

ホク あなたは静かにしてて！お願い！ちよっと手伝って下さいよ

ワル 他にいないの？

ホク 新人のナントってやつがこちらへんにいるはずなんだけど、携帯も繋がらないし、

どこ行っただか？ワルキューレさん、お願いしますよ

ワル そうねえ：

ワルキューレはしばし悩む。笑吉の魂が肉体に近付いたことで、肉体は落ち着きを取り戻す。

寿々 うん、まだ大丈夫：大丈夫。ああ、みなさんゆっくりしてて下さい。ほら、お母さん

勝代 ん：

しかし誰も動かない。救急車やパトカーの音が聞こえる。

寿々 本当に、まだ大丈夫だから：みんな向こうに行きましょう。なんかこうやって見てたら：死んだみたいじゃない：。ご飯食べてくる

寿々は部屋を出て、智徳もそれに続く。内田と水本も持ち場に帰っていく。

齋藤 そうしたら私、また御連絡差し上げます。笑吉さんにふさわしい言葉、探しておきます

勝代 ええ。お願い

前田 帰っちゃうんですか？お忙しい？

齋藤 時間はありますけど：また日を改めて

前田 お昼食べていきませんか？

齋藤 いや：

勝代 無理言っちゃだめよ。玄関までお見送りしますね

勝代は齋藤を見送りに行く。

小島 好みだった？

前田 可愛かっただろ：工場のおばさん軍団と比べてみるよ！笑吉さん、女と遊ぶくらいなら仕事覚えろって言ってたのに：

笑吉 もう、思いつきり遊んでもいいぞ

ワル 笑吉さん、逃げたりしませんよね？私行ってくるのももう少しだけ皆さんといて下さい

笑吉 え？いや、いいのかな

ホク いいんですいいんです。笑吉さんは待っていて下さい。さっきみたいに遠くに行ったら糸がきれちやいますからね。注意して下さい

笑吉 ならホクトさんの為に待ちましょうか

ワル でもホクト、手伝うっていつでも：そうね：

ワルキューレは笑吉の部屋に入り、時計を確認する。

ワル 二時までよ

ホク 絶対無理だって。二時半：いや、三時までお願い

ワル えー、私まだ仕事残ってるのよ：すみません、笑吉さん。三時でもいいですか？

ホク もし三時までに糸が切れちゃっても、ここで待って頂けたらワルキューレが迎えに来ますから。ね？

笑吉 いつになっても構いませんよ。ま、私はどれだけ生き伸びても三時までの命ということか

ワル 本当にありがとうございます。こんなに潔い方、初めてです。ね、ホクト？

ホク うん。じゃあ行こう、早く早く

行こうとしたホクトと勝代がはち合わせる。

ホク わお！ビックリ！（笑って笑吉に）じゃあ

勝代 どちら様ですか？

ホク あ、ホクトと言います：え？

ホクトとワルキューレは状況に気づく。勝代の目に、死人であるワルキューレとホクトの姿が映る。しかし笑吉はまだ死んでいないため映らない。

勝代 あらー、気づきませんで失礼しました。いついらっしやったんですか？笑吉とはどういう御関係で？

ホク どうと言われても：

ワル 私達、笑吉さんに昔お世話になった者です。人づてに笑吉さんのことを聞きまして：お見舞いに

勝代 そう、御夫婦？

ホク ええ、まあ：そういう感じですね

ワル はあ？

勝代 お茶入れますからね、少しお待ち下さい

勝代は部屋を出て行く。

ワル 誰が夫婦よ

ホク まあいいじゃない、いいじゃない。お手手つないで。いってきまーす

笑吉 ちょっと待て

笑吉はワルキューレとホクトを部屋の外に連れ出す。

ワル な、何ですか？

笑吉 何ですかじゃない。勝代に君らの姿が見えるとはどういうことだ？

ワル さあ：

笑吉 死んでいる人間にしか見えないと言っていたじゃないか。勝代は生きてるだろ、話が合わない

ワル そう言われましても

笑吉 説明するまでここを動かないぞ

ホク 動かないと言われましても、まあどうぞ自由に

笑吉 そうか、君らは逃げられる方が嫌だったな。なら、逃げるぞ

ワル それは困ります：

笑吉 じゃあ話しなさい

ホク わかりました。まあ、たぶんですけど、もうすぐ亡くなるんですよ。たまにあるんですよ。亡くなる直前にこっちの世界が見えるって。別に奥さん、霊能者じゃないんですよ

ワル ちょっとホクト

ホク 本当のこと言うしかないでしょ。行こうよ

笑吉 ちょっと待ってくれ。勝代は病気なんかないんだ。私と違って人間ドックには毎年行かせているし何の検査にも引っ掛かってない。どうして勝代が死ぬんだ。事故か？

ホク そんなのわかりませんよ。事故かもしれないし自殺かもしれないでしょ  
笑吉 自殺！勝代が自殺！

ワル ホクト！

ホク 可能性としてはあるでしょ。話しないで行きましょ、間に合いませんよ  
ワル え：じゃあ、なるべく早く迎えに来ますからね

笑吉 行かんぞ！

ワル ええ！

笑吉 こんな状況で死ぬるわけないだろ！

ワル ダダこねるんですか？恥ずかしいことだと言ってましたよね？

笑吉 知るか、そんなの！

ワル 開き直り？

ホク いいじゃない、行こうよ

ワル 行けないわよ！

ホク 大丈夫だって、逃げないよこの人、ね？

笑吉 逃げないから早く行きなさい

ワル そっち終わったらこっち手伝ってよ

ホク はいはい

ワル 三時までだからね

ホク はい  
ワル とにかく、ここを動かないで下さいよ

ワル キューレはホクトと出て行く。

笑吉 自殺：まさか：

勝代が笑吉の部屋に戻っていく。

勝代 あら：

勝代は笑吉の肉体に話しかける。

勝代 あの人は、誰だったんですか？

笑吉 …

勝代 銀座のマリちゃん、北新地のサキちゃん：私の知らないこと、まだ他にあったんで  
すかね：

笑吉 勝代、お前死んだりしないよな？

しかしその声は勝代には届かない。内田がお茶を持って現れる。

内田 奥様、お客様は…？

勝代 いないわ。帰っちゃったみたい

内田 誰も会いませんでしたよ：もしかして、泥棒かも。最近泥棒多いじゃないですか。

お知り合いの方でした？

勝代 ううん、知らない方：悪い人じゃなさそうだったけど

内田 用心したほうがいいですよ、まだ家の中にいるかもしれませぬ。念のため、注意しておきましょう

勝代 ええ

内田は去る。笑吉は何をしたらいいのか考えるが、途方に暮れる。

笑吉 どうしたらいいんだ！

寝ている笑吉の肉体がピクツと動く。しかしそれには誰も気がつかない。

突然旅行姿の明広が見れる。奥の部屋で寿々を見つけると、叫ぶ。

明広 おい、寿々！大変だ！

寿々 明広！

その場にいた面々は口々に明広のことを呼ぶ。

明広 兄貴を呼び捨てにするなって！そこで交通事故だよ。怪我人がたくさんいて救急車が追いついてないんだ。お前行ってやれよ！前田も小島も、手あいてんなら行ってやれ！

前田 は、はい！

寿々 お父さんは？

明広 バカ！親父は死ぬんだろ？外じゃ若い子が痛い痛いって言ってるんだ。どっちが大

事だ？

寿々 …

寿々は準備を始める。

笑吉 お前何だその言い草は

小島 明広さん、どこですか？

明広 すぐそこだよ、三丁目の交差点！

寿々 お母さん、お父さんに何かあったら携帯に連絡して

勝代 わかった

寿々、前田、小島が出て行く。

智徳 兄さんは行かないのかよ

明広 俺が行ってもしようがないだろ。俺は医者じゃない。アーティストだ。俺の部屋、

そのままにしてる？

勝代 ええ。いつも言ってるでしょ

笑吉 ？

智徳 いつもって何？兄さんと十年は会ってないだろ？

勝代 何言ってるの、毎年会ってたわよ。そうじゃなきゃこんなタイミングよく帰ってくるわけないでしょ

笑吉 何だと！

智徳 俺、そんなの聞いてないよ

勝代 当たり前でしょ。あんたに言ってるの？寿々は知ってたけど

智徳 そうなの！

明広 荷物置いてくるわ

勝代 ええ

智徳 待てよ。父さんに挨拶するのが先だろ？

明広 挨拶って返事できるのか？荷物置いたら降りてくるよ

智徳 順序ってもんがあるだろ

明広 これが俺の順序だよ

勝代 はいはい、とりあえずやめて。だから智徳には言わなかったのよ

智徳 ？

勝代 早く荷物置いてきなさい。お父さんのところにいるからね

明広は部屋を出て行く。

勝代 ちょっとは落ち着いて話してみたら？

勝代は笑吉のもとへと向かう。

ふてくされた智徳は座っている。そこに水本が現れる。

水本 何イライラしてるの？お兄さん、あんまり似てないね

智徳 見た目だけじゃない。性格も、能力も、俺とは全然違うよ

水本 兄弟なのにね

智徳 全然知らないところで母さんは会ってたって

水本 傷ついた？

笑吉の携帯が鳴る。

水本 はい、もしもし

智徳 親父の携帯？

水本は頷く。

水本 もしもし！…え？誰って、私？水本ですけど。もしもし！切れちゃった  
智徳 気味悪いな

水本 もう何回目だろう。私、狙われてるのかな？キヤー、どうしよう！

智徳 それ、父さんの携帯だろ

笑吉 …

水本 冗談でしょ！もう…ともちゃんイライラしないでよ

笑吉 ともちゃん？

智徳 イライラしてねえよ。兄貴があんなだから

水本 その前から機嫌悪いじゃない。何よ、水本さんって

智徳 寿々に変なこと聞くからだろ？あいつ弱ってんだからちよつとは気を使えよ

水本 一番傷ついてるのはともちゃんでしょ

水本は智徳の手を取ると腹部にあてる。

水本 パパ、大丈夫ですかー？

笑吉 パパ！

智徳 麻美も無理すんなよ。大事な時期なんだろ

水本 わかってるって。手を抜いて動かないようにしてる

智徳 それは前からだろ

水本 バレた？結婚のこと、いつ言うの？

智徳 父さんがこんななのに、言えるかよ。お前、絶対に言うなよ！

水本 …言っちゃダメ？

智徳 ダメだ！

笑吉 お前、よりによって…

勝代 明広、智徳！早く来なさい

智徳 じゃあな

水本 うん

智徳は笑吉の部屋に入る。水本も部屋から出て行く。

勝代 少しは落ち着いた？

智徳 ああ。兄貴、家にいない間、何してたんだ？

勝代 それは直接聞いてみたら？

智徳 …

明広は部屋に入ろうとするが、入り口で内田に話しかける。

明広 内田さん、俺の部屋に布団が敷いてあるんだけど、ベッドで寝るからさ。どけてくれない？

内田 ああ、すみません。坊ちゃんが帰ってくるとは思わなかったの。片付けます。水

本さん？水本さん！

内田は水本を探しに行く。明広は部屋に入る。

明広 この家、まったく変わってないな。お前は年とったな。どうだ、ヤマモトヤには慣れたか？

智徳 母さんが言ったの？

勝代 そうよ

智徳 兄さん、父さんに言うことないの？

明広 え、何？

智徳 言わなきゃいけないことがあるだろ

笑吉

：

明広は神妙な顔で笑吉を見る。

明広 ないな。俺には、言うことがない

智徳 そんなわけないだろ

明広 何があるんだ？

智徳 父さんに謝れよ

勝代 智徳

明広 何をだ？何か迷惑かけたか？

智徳 は？かけたなんでもんじゃないだろ！五年で帰ってくるって言って！もう十年だぞ？

勝代 智徳やめて

明広 いいじゃねえかよ、俺が抜けてお前がきたんだ。迷惑かけてねえだろ

智徳 それは詭弁だろ

明広 詭弁って何だよ、馱弁なら好きだぞ

智徳 真面目に聞けよ

明広 聞いているよ

智徳 父さんはもうすぐ死ぬんだぞ

明広 わかっているよ。ガキじゃねえんだから

智徳 今しかないんだぞ、ふざけてる場合じゃない

明広 ふざけてねえって。頭フル回転だよ

智徳 ならまず謝れよ

明広 だからどうしてそうなるんだ？母さん、俺謝らないといけないか？

勝代 それは自分で考えなさい

明広 だよな。やっぱりお前が間違ってる

智徳 何が間違ってるんだよ、母さんもちゃんとやってくれよ。兄さんは謝るべきだろ

明広 お前はわかってないな。俺は今、謝ることがあるか考えてるんだ。お前が間違ってるってのは何も思っていない俺に謝れと言っていることだ。ちよっと待てよ、バカ

智徳 バカっていうな！俺はあんたとは違うんだ。どうしてあんたといっつも比べられな  
いとイケないんだ！

明広 何興奮してんだよ。バカが嫌だったか？それなら謝るぞ。ごめんな  
智徳 いい加減にしろよ

智徳は明広に掴みかかる。

勝代 ちょっとあなた達やめなさい

勝代は二人の勢いに飛ばされる。

笑吉 勝代！ちょっとお前らやめんか！

笑吉もケンカを止めようとするが、もちろん何もできない。

笑吉 やめろと言ってるだろ！

その瞬間、笑吉の肉体の片手が上がる。笑吉だけがその事実気づく。  
水本の悲鳴が上がる。階段をすべり落ちる音。

智徳 どうした！

智徳が飛び出す。つれて勝代と明広も廊下に出て行く。

笑吉 動いた？やめんか！

体は動かない。少し感情を入れて笑吉は叫ぶ

笑吉 やめんか！

少し体が動く。

笑吉 おい、お前ら！動いた、動いたぞ！

一人で大喜びする笑吉。しかし全員水本に夢中で誰も笑吉のことなど見ていない。

笑吉 おーい：

笑吉は寂しげに座りこみ、酒を飲み始める。

奥の部屋に水本が担ぎ込まれる。智徳は内田に詰め寄る。

智徳 内田さんが頼んだんですか？

内田 ええ。明広さんのお部屋の布団を降ろしてって：

水本 いいのいいの。大丈夫。ちよっとお尻打っただけだから

智徳 大丈夫じゃないだろ！

明広 本人が大丈夫って言ってんだぞ。お前何興奮してんだよ

智徳 だいたい兄さんが自分で降ろさないからいけなんだろ

明広 お前何でも俺に当たるな

内田 すみません、私のせいです

水本 ほんと私はいいから。布団降ろしてきますね

智徳 俺がやるよ

出て行く智徳を内田が追いかけて行く。

明広 なんだよ、あいつ

勝代 麻美ちゃんに気があったりして

水本 ハハ：

勝代 ちよっとここで休んでなさい。寿々が帰ってきたら診てもらって

勝代は笑吉のもとに戻る。

ホクトが野村を引き連れて帰ってくる。野村は疲れた表情で、薄いカバンを持っている。ホクトはくたびれている笑吉のもとに歩み寄る。

ホク あの

笑吉 あ、ホクトさん：体が動きましたよ

ホク まだ体と糸で繋がっていますからね。：心なしか老けましたね

笑吉 家族の色んな面を見てしましましてね、混乱してるんですよ

ホク 人間は思い込みの生き物ですからね

笑吉 はは、そう冷静に言われると、はは：笑うしかないですね

ホク 愚痴は担当のワルキューレに言って下さい。一つお願いですが、ここ、待ち合わせに使わせてもらってもいいですか？ちよっとまだ生きてるか死んでるかよくわからない人がいてね。仕分けしないといけないんですよ。あ、この人は確実に死んでますけど。絶対に迷惑かけませんから。いいですか？

笑吉 好きにしてくれ。ホクトさん、あいつの事を聞きだす、何かいい案ないですか？

ホク 体が動くんなら、言葉も出るかもしれませんよ

笑吉 ほんとにか？

ホク ええ。気合いですよ。それじゃ、また来ます。野村さん、ここで待ってて下さいね。みんな揃ったら成仏しますからね

ナントが走ってくる。

ナン ホクトさん！  
ホク あ、おまえ何してたんだよ！  
ナン すみません、迷ってました！  
ホク 大変なんだから、早くこっち！  
ナン はいっ！

ホクトとナントは去っていく。  
笑吉は勝代に必死で話しかける。

笑吉 勝代、勝代！

わずかに体は動くが、勝代は気づかない。

笑吉 おまえ、どこを見てるんだ、動いてるだろ？気づけ！私に気づいてくれ！

しかし勝代は気がつかない。

野村 すみません

笑吉 はい？

野村 これは（お酒）頂いてもいいものですか？

笑吉 お好きにどうぞ；勝代！勝代！勝代！…はあ

笑吉も酒を飲んで喉を潤す。

野村 いただきます。もしかして、あそこにいるのが…

笑吉 私です。勝代！勝代！

だんだん投げやりになる笑吉。

野村 届くんですか？

笑吉 そうみたいです。あいつ、どうして気づかないんだ？動いてるのに

野村 動くんですか？死んでるのに

笑吉 私は少しだけ生きてるらしいです。あなたは？

野村 先ほど死にました

笑吉 そうですか；勝代！

野村 気づきませんね

笑吉 つまらないことはすぐ気づく癖に、あのバカ！

勝代はピクッと何かに反応する。笑吉は焦る。

野村 ハハハ

笑吉 女ってのは何なんでしょうね？感性の生き物っていうのか

野村 女は怖い

笑吉 ですね。あー、どうしろってんだ

野村 何を伝えたいんですか？

笑吉 :

明広 笑吉の部屋に入ってくる。

勝代 あら、どうしたの？

明広 ん？智徳が布団片付けてるから逃げてきたんだ。それにもう一回じっくり見たいと思ってる

勝代 そう

明広 はじつと笑吉の前に座り一歩も動かない。

野村 息子さんですか？

笑吉 はい：十年ぶりに会ったんですよ

野村 ええ？

笑吉 芸術家になるって家を出て行って、それっきり

野村 ならどうして今日は？

笑吉 あいつが連絡取ってたんですよ。私に隠れて。十年間全く気がつかなかった

野村 女性には勝てませんよ

明広 なあ。どうして人は死ぬんだろうな？

勝代 何よいきなり？：フフフ

明広 おかしい？

勝代 明広らしい質問だなと思って。あんた昔っからそうだもん。学校でも塾でも授業に  
関係ない質問ばかりして。それなのに成績は一番

明広 答えがある問題なんて何も難しくないし、面白くもなんともない。答えが出せない  
問題を、俺はやりたいたんだよ

勝代 それがさっきの質問？

明広 それもあるし、今の、この俺の感情。なんだろな、なんか違和感があるんだよ

勝代 どういう？

明広 それが説明できないから難しいんだな。そうだ

明広 は部屋を飛び出す。

野村 息子さん、ちょっと変わってますね

笑吉 だいぶ変わってるよ。私には理解できない

明広が絵の道具を持ってくる。

勝代 何するの？

明広 絵を書く

勝代 絵も書いてるの？

明広 うん。最近の主な収入源。原点に戻ろうって思ってたね

勝代 デザインってこと？：画家になる気はないの？

明広 俺はアーティストだからね。芝居も彫刻も、全部続けてるよ

野村 アーティストって何ですか？

笑吉 わからん

明広 親父、何の病気？

勝代 肺ガンだって。見つかった時には骨に転移してて

明広 気づかなかったの？

勝代 病院に行くくらいなら仕事するって人だからね。お医者さんが言うには仕事ができ  
てたのが不思議なくらい痛い痛かっただろうって：

明広 母さんにはうるさいくらい健康健康って言ったのにね。あれ、今でも？

勝代 もちろんよ。ほんと、自分の心配しろって！バカなんだから：

笑吉 :

勝代 上手いじゃない

明広 これくらいで褒めないでよ。金とってんだから

勝代 劇団入って、彫刻やって、詩を書いて、絵を描いて。楽しそうね

明広 ああ、楽しいよ

勝代 詳しく教えてよ

明広 いつも言ってるだろ。言うほどのことはないって

勝代 このお父さん、元氣そうね

明広 見たまんま書いたって仕方ないだろ。それなら絵にする必要なんかない。俺がこの  
世界をどう捉えているのか、それが芸術だろ

勝代 なんか、お父さんも同じようなこと言ってたわ。おもちや作ってる時に

明広 そりゃ、親子だからな。父さんは、母さんが連絡とってたこと知ってたの

勝代 聞いてこなかったけど、多分知ってたんじゃない？あえて知らない振りしてたんだ  
と思う

笑吉 知りませんでした！

明広 :

勝代 どうしたの？

明広 親父、死ぬんだよな？

勝代 うん：

明広 今、動いたよ

勝代 え？何言ってるの？

笑吉 勝代！勝代！

明広 ほら  
勝代 え？あなた、あなた！  
笑吉 勝代、勝代！  
勝代 寿々に連絡しなきゃ

勝代は電話をかけようとするが、ちょうどその時寿々達が帰ってくる。斎藤も一緒だ。全員力が抜けたようになっていいる。

小島 はあ：  
前田 疲れたね：  
斎藤 ええ：あんな悲惨な事故：見たことない：  
水本 あ、寿々さん！ちよつと見て頂けます？階段から落ちちゃって  
寿々 大丈夫？  
明広 おい、寿々！  
寿々 何よ  
明広 親父が動いた！  
寿々 ええ！

寿々、明広、前田、小島、智徳が笑吉のもとに向かう。  
寿々が笑吉の様子を探る。

笑吉 寿々、わしより母さんだ！母さんの体に、かわったことはないか？  
勝代 何か言ってる？  
笑吉 わしはもう死ぬ。寿々、母さんを見てくれ  
明広 死ぬ？母さん？  
智徳 母さんって、ばあちゃんのこと？  
勝代 うなされてるの？  
笑吉 違う！  
勝代 （笑吉の言葉を聞き取って）違う？  
笑吉 勝代！お前は：何だ？悲しいのか？死にたいのか？

その時、ホクトとナントが大量の魂を連れて現れる。笑吉の横に立つと、ホクトとナントは魂の仕分け作業を始める。笑吉は必死で勝代に話しかけている。

ホクト はい、ここに並んで下さい。今から生きてるか死んでるか仕分けしますので、私の前に一人ずつ立って下さい。みなさん、静かに待っていてくださいね。ナント、見てろよナン はい！

はじめに前に来た魂をホクトがじろじろと見て、糸があるかどうかを見極める。

ホク 頭な―し！  
ナン 頭な―し！  
ホク 肩な―し！  
ナン 肩な―し！  
ホク 腕：？あつた―！  
ナン あつた―！  
ホク おめでとうございます！  
ナン おめでとうございます！  
ホク あちらで待機してて下さい。体に戻りましょう！はい、次のかた！  
笑吉 うるさい！  
ホク え？問題ありますか？  
笑吉 おおありだよ！黙っててくれ！  
ホク 声な―し  
ナン 声な―し

ホクトとナント、魂達は無言で場所を移動する。

笑吉 勝代、私に言いたいことはないか？

勝代 イタイ？痛いのか？

ホクトは次の魂からも糸を見つける。

魂6 生きてるんですか？

ホクトは頷く。

魂6 やった：やった―！私、生きてるんだ：生きてる！

笑吉 うるさ―い！あつちでやってくれ！向こう行け！

勝代 あつち：いけ？どうということ？

ホクト達は退散する。

笑吉 お前は死ぬんだ。どうしてだ？事故には気をつける。家から出なくていい、どうして、どうしてお前が死ななきゃならないんだ：

勝代 え？何、何？

笑吉が話を止めると、体は動かなくなる。

寿々 母さん、言いくいんだけど：

勝代 何？

寿々 体に変化ないの。脈も落ちてるし呼吸も弱いままだし：たまたま動いたように見え

ただけだと思ふ：

笑吉 違う！

寿々 声みたいに聞こえたのも、たぶん呼吸：

笑吉 寿々、何を見てるんだ？私はこちらにいるんだ！まだ言わなきゃならないことがあるんだ！

笑吉は座りこむ。

寿々 みなさん、落ち着いたんで、また向こうで待ってて下さい

勝代、寿々、智徳、明広以外は部屋を出て行く。

勝代 奇跡なんておこないわよね

寿々 …

明広は神妙な面持ちで絵描きを再開する。

智徳 兄さん、何やってんの？

明広 絵を描いてんだよ

智徳 絵なんか描いてる場合じゃないだろ

明広 じゃあどういふ場合だよ？

智徳 父さんに謝れって

明広 お前しつこいぞ。考えてるって言ってんだろ？

智徳 絵を書くのが考えてることなのか？

明広 そうだよ、お前にはわかんねーけど

智徳 ああ、どうせ俺にはわかんねーよ

寿々 もう、お兄ちゃん達やめなよ

明広 智徳、じゃあ聞くが、お前は俺に何を謝れっていうんだ？

智徳 だから、父さんを裏切って出て行ったことだろ？

明広 それをどうしてお前が怒るんだ？お前はヤマモトヤで喰わせてもらって、いずれ社長だ。俺はその地位を譲ってやったんだ、何の文句がある？

智徳 そんな話はしていない。五年で戻るといふ約束を破った、そのことが気に食わないんだ

明広 お前がしつかりやって、俺が戻る理由がなくなった、それでいいだろ

智徳 違うよ。たいして芽が出なかったからだろ。プライドの高い兄さんのことだ、成功したら喜んで報告に来ただろ。役者やってんだか絵描きやってんだか知らないけどさ、ぶらぶら適当な時間すごしてるだけなんだろ！

明広 推測で物を言うなよ。俺のやってることは、評価なんて関係ないんだよ！成功も失敗もない。まあ前にはわかんねえだろうけど

智徳 だから強がるなって。今日帰ってきたのもどうしてだ？遺産目当てか？

明広 お前、泣かされたいのか？いい加減にしとけよ！  
勝代 二人ともやめなさい  
寿々 やめて！

寿々の叫びに兄弟の言葉は止まる。

寿々 お兄ちゃん達、何考えてるの？お父さんとお母さんの前だよ！ケンカするなら二人だけでやってよ！私から言わせたら、二人ともバカよ！大バカよ！

智徳 寿々、俺は：

寿々 二人とも出てって！

トボトボと二人は出て行く。

寿々 どうして、あの二人はああなの？十年ぶりに会えたのに

勝代 寿々、気にしすぎよ。男の人にはああいうやりとりが必要な

寿々 そんなこといって、お母さんも心配なのよ。ただでさえお父さんがこんなでストレス貯まっているのに：お兄ちゃん達あんなだし。私、お母さんの体が心配で：

寿々は泣き始める。

勝代 私は大丈夫よ。それより、交通事故の方はいいの？

寿々 うん、私にできることはやった。もう助からない人もいたけど：私ね、医学部の面接で、両親を看取りたいから医師になりたいですって言ったの。面接官の人に、もっと視野を広く持たないといけないって怒られたけど、今も同じ。お父さん、何もできずに見るだけってどうしても辛くて。もっと早く検査を受けさせてたらって何回も後悔して。せめて、お母さんだけでも：傲慢かもしれないけど、お母さんには長生きしてほしいんだ。だからお母さんは：

勝代 ありがとう：疲れたでしょ。ちよつと休んできたなら？

寿々 …うん

部屋を出る寿々に、智徳が申し訳なさそうに話しかける。

智徳 ごめん、寿々：水本さん、診てあげて

寿々 あ、ごめん、忘れてた

智徳は自分の部屋に帰る。

寿々は水本の怪我の様子を診る。

野村 元気なお子さん達ですね

笑吉 お恥ずかしい限りです

野村 いいじゃないですか、主義主張があつて。奥さん：お亡くなりになるんですか？  
笑吉 ええ：

野村 どうしてわかるんですか？

笑吉 お迎えさんの姿が見えたんです。見えると言うことは近いうちに死ぬこと、らしいです

野村 それですか、必死なのは：心当たり、ないんですか？

笑吉 全くないんですよ。いや、全くないというか全然わからない。知らないことが次々と出てきて、結局私が見ていた家族は何なのか、自信が持てないんです

野村 いいじゃないですか。生きてるうちに見なくてすんだんだから  
笑吉 ？

今村が歩いてくる。今村は段ボールを抱えながら、ひたすら迷っている。

野村 彼、霊ですよ？

笑吉 こんなところ、歩く奴はいないだろ。おい、君、君！

今村は去る。

野村 あれがいわゆる幽霊ですかね

笑吉 まだ若そうなのにな：

ワルキューレが江藤と川口を連れてくる。江藤はひどく落ち込んでいるが、川口の様子は街角を歩いているような雰囲気。江藤はヘルメットを持っている。川口は何も手にしていない。

ワル ここでしばらく待っててね。全員揃ったら行きますから

江藤 ーはい

川口 ねえねえ、どこに行くんですか？

ワル 成仏しに行くの

川口 私達、もう死んでるでしょ？成仏って何？

ワル なんででしょうね？生まれ変わるって言う人も、天国に行くって言う人もいます

川口 行かなきゃなんないの？

ワル ええ

川口 じゃあ、場所教えてくれたらすぐ行きますよ

ワル ノンノン、そういうわけにはいかないの。手続きがあつてね

ワルキューレは二人の周りをもう一度確認する。

ワル うん、糸は切れてるね。じゃあね、動かないで待っててよ  
川口 えー

ワルキューレは事故現場に戻る。

笑吉 君達、事故で死んだのかい？

川口 はい、そうみたいです！

江藤 僕が悪いんです、全部：

笑吉 君達、いくつだ？

江藤 二十五です

川口 二十歳です！イエイ！

笑吉 そんな：若くして：可哀そうに

川口 そうですか？

笑吉 そうだよ。まだいくらでもやりたいことがあったろうに：またどうして？

江藤 すみません、すみません：

笑吉 話してみなさい

江藤 すみません：

野村 バイクの事故ですよ。若い運転だった。猛スピードで交差点に突っ込んできて。またそれをよけきれなかった通行人がいた。不運な事故だった：

江藤は顔をあげる。

江藤 もしかして、あなたが：すみません！僕なんかのせいで、死ぬのは僕だけで良かったのに

野村 そんなこと言うもんじゃない。私は、感謝してるんだ。ちよつとした事情でね、死ぬか生きるか選択を悩んでいた。君が結論を出してくれたんだ、ありがとう

江藤 そんな：すみません、僕がもう少しちゃんと運転してたら：

野村 謝るのは私にじゃない、その子と、その子の御両親にだろ。私なんか死んでも気にすることは無い

江藤 ：もう、みなさんに申し訳なくて。えり、ごめんな

川口 だからいいって、しつこいな。私もそのおじさんと同じよ。殺してくれてありがと。ちよつと痛かったけど、すぐに意識飛んだし

笑吉 君、何を言うんだ！まだ二十歳だろ？

川口 それが何？だって生きてたって楽しいことないじゃん？働かないとご飯食べられないし、健康も、見た目も落ちて行くだけだよ。まあ二年くらい早かったかもしれないけど、想定範囲内っしょ

笑吉 御両親が悲しむぞ

川口 いいお家に生まれて大切に育てられたら、こんな死に方するわけないでしょ？適当に育てられたから、適当に生きてんのよ。なんか悪い？

笑吉 どんな事情があっても大切に生きていたら、きつと運命は変わっていくぞ

川口 はいきた、うざい文句。大体ね、死んだ人間に死ぬなって言っただけなんかいやめるの？それにおじさんだって死んでありがとって言っただけじゃん。どうして私はダメなの？

野村 君はまだ二十歳だろ

川口 あのね、命は平等だって習わなかった？二十歳でも六十でも百でも一緒。ねえ、カ  
ンちゃん、行こう

江藤 え？ああ

笑吉 ここで待ってると言われただろ

川口 わかってるって。家の中見るだけだよ。ほんとうざい

江藤と川口は笑吉の家の探検を始める。

笑吉 なんなんだ、あの子達は：

水本の診察が終わる。

寿々 うん、大丈夫大丈夫。単なる打撲：っていうほどでもないか。痛みださないなら問  
題ないわ

水本 すみません、ありがとうございます

寿々 みずもっちゃん、今まで気づかなかったけど、もしかして：

寿々は水本の腰回りを触る

水本 え？（緊張する）

寿々 安産型よね。骨盤大きいわ

水本 そうなんですか？ありがとうございます！なんか嬉しいな

寿々 お大事にね。私、部屋にいるから何かあったら呼んで

水本 はい

笑吉の携帯が鳴る。

水本 もしもし、もしもーし、しっこいんですけどー。やめて頂けますかー？

電話は切れる。

寿々 どうしたの？

水本 朝から無言電話。社長がどうのこうのって小さい声で。聞こえるかっての！

寿々 気持ち悪いこと言わないでよ。父さんに恨みがあるってこと？

水本 さあ？社長だから勝代さんかもしれませぬよ。社長代理って意味で

寿々 まさか。そりゃ父さんでしょ

水本 ならいいですね、笑吉さんこんなんだし襲われても安心だ

寿々 もう、水本ちゃんたら

寿々は出て行く。

野村　：あの人、あなたの部下ですか？

笑吉　秘書です。お得意さんの頼みで仕方なくね

野村　はー、よっぽど余裕のある会社なんですね

笑吉　息子の嫁を悪く言わないで下さい

野村　え？

水本はお腹をさする。

笑吉　孫も入ってるんですよ

明広は飲み物を取りに入ってくる。

水本　あ、天才のお兄さんだ

明広　何？誰が言ってたの？あー、喉渴いた。お茶お茶：

水本　ヤマモトヤにいたんでしょ？みんな言ってますよ。おもちや作りの天才だって

明広　嬉しくない呼び名だねえ。あんた、誰なの？スタントマン？

水本　社長秘書の水本です！明広さんはどうしてヤマモトヤをやめたんですか？

明広　いいだろ、そんなこと。それより水本さん、どうして人は死ぬんだと思う？

水本　生きるとか、死ぬとか、全部神様が決めるんですよ。赤ちゃんができるのも、その赤ちゃんの寿命を決めるのも

明広　なるほど。じゃあ神様はどうして寿命を作ったんだ？

水本　なんででしょうね？ずーっと同じ人ばかりだと、神様も飽きるんじゃないですか？

明広　そう、変化がないとつまらないんだよ。生きてるってのは変化なんだから。体も大きくなれば、感情だって一つじゃない。死ぬってのは生きてる反対だ。変化が止まるから死ぬんだ。年寄りになれば考え方が固くなる、変化できなくなるから死ぬ。自殺する奴も同じだ。変化できなくなるから死ぬんだ

水本　笑吉さんは違うと思うけどなー

明広　そうなんだよ。事故や病気で死ぬ時はそれだけじゃない。だから難しいんだ、死ぬってことは

水本　ふーん

明広　あんた、いい感性してるね。好きだよ、そういう人

明広は出て行く。

水本　似てるかも

川口と江藤は家の中をぐるりとまわり、奥の部屋に入ってくる。

川口 ねえねえ、カンちゃん、どうして髪の毛黒いの？私金髪の方が好きだな  
江藤 しらないよ

川口 もう、いつまで落ち込んでんのよ。ほら、これカタカタだよ！なんでこんなところに  
あるんだ？って。面白くない？

江藤 ……

川口は触ろうとするが触れない。

川口 つまんない

江藤 ごめん…

川口 この家ほんっと大きいよね？

江藤 うん、凄いい家だね

川口 悪いことしまくったんだろうね、この家の人

笑吉 そんなことするか。まっとうに一から稼いで建てたんだ

川口 え、これおじさんのお家なの？

笑吉 お嬢ちゃんにいいことを教えてあげよう。実は…私の家は凄く貧しかったんだ。父  
親が商売で失敗してな、私が中学生の時に借金だけ残して行方知れずになった。母親は  
内職で借金を返すのに手一杯。何も持たなかった私は、公園にいた子供を見て思いつい  
た。子供のおもちゃなら私にも作れるんじゃないかって。そう思った私は廃材をけずつ  
ておもちゃを作ったんだ。剣みたいな簡単な物から初めて、カタカタ忍者や動物の積み  
木なんかも最後には作れるようになった

川口 ふーん。それでお金持ちになれたんだ

笑吉 それは、食べられるようになっただけだ。少しずつ貯金をし、小さいながら工場を  
作り、研究を重ねて新しいおもちゃを考えていた。そして、ロボットブームの時に、新  
合金のおもちゃを開発した

江藤 新合金！

川口 知ってるの？

江藤 ロボットといえば新合金だろ！リアルな触感と重量感、ギミック、めちゃくちゃほ  
しかつたんですよ…あれ、作られたんですか？

笑吉 そうだ。新合金はヤマモトヤの大ヒット商品となり、大工場も三つ建った。だから  
ね、お嬢さん。今いる環境を嘆いても何も始まらない。努力すれば必ず報われる

川口 結局それってただの自慢話でしょ？おじさんわかる？努力したって報われないこと  
もあるんだよ。行こう、カンちゃん

川口と江藤は再び探索に戻る。

野村 ヤマモトヤの社長さんなんですか？

笑吉 ええ

野村 はあ…そりやすごい。ただね、私も私なりにやってきたつもりなんですよ  
笑吉 ……

野村 あの子の言う通り、努力が報われないこともあると思います

奥の部屋に、斎藤、前田、小島の三人が現れる。

前田 疲れたな：机重すぎだつて

斎藤 でもこれで、何人お客さんが来ても大丈夫ですね

前田 そうだね

水本 あれ、斎藤さん、帰りませんでした？

前田 事故現場に行ったら斎藤さんが先に救助してたんだ

斎藤 会社で救命措置の訓練受けたばかりだったんで

水本 それでもやらないでしょ

斎藤 笑吉さんと話したからかな？何か、逃げるのが恥ずかしくなって：

小島

水本 小島さん、静かですね

前田 事故だろ？

小島 ええ

前田 ひどかったんだよ。二十歳かそこらの子が何人も倒れてて。ひどい怪我をした子がたくさんいて：

小島 神様、ひどいことしますね

前田 この本、頂いてもいいんですか？

斎藤 どうぞ。私、そろそろ行きますね

前田 いいよいいよ、いてちょうだい

斎藤 え？

前田 いてって！時間あるんでしょ？なんだったら仕事手伝うよ！

斎藤 お忙しいでしょ？

水本 もう終わったんじゃない？

斎藤 なら、一緒にあおり文句考えて頂けませんか？笑吉さんのこと、話して下さい

前田と斎藤は話しを始める。小島は本を読んだり、おもちゃで遊んだりして時間を過ごす。

ワルキューレが魂2を連れて現れる。魂2はただひたすら泣いている。

ワル ほら、泣かないで

魂2 (泣いている)

ワル あれ、さっきの二人はどこ行きました？

笑吉 私の家で遊んでますよ

ワル 逃げてないですか？

笑吉 逃げる理由がないでしょ。あの子は死にたくてしようがないようです

魂2 私、死にたくない：

ワル うん、それはわかるけど：

魂2 (一段と大きな声で泣く)  
ワル ここじや迷惑になりそうだから、あっちに行きましょうか

ホクトとナントが魂3、魂4、他多数の死んだ魂を連れて現れる。後ろから魂5が追いかけてくる。魂5には太い赤い糸が繋がっている。

ホク 凄い数だよな…全員来てる？

ナン はい

ホク ワオ！お前生きてるって言っただろ、ついてくるな、早く戻れ

魂5 でも…

ホク でもじゃねえよ！この糸、めちやくちや太いだろ。自分の体に戻れって

魂5 戻りたくない

ホク は？

魂5 俺の体は嫌。綺麗な女の人にのりうつってあんなことやこんなことしたい

ホク あのな、これはマンガの世界じゃないんだよ。戻れるのは自分の体だけ！ほら、早く戻れ！

魂5 は渋々去っていく。

ホク じゃあ君達はここで待機しててくれ

魂3 はい…

ホクトは少し離れてナントと話す。

ホク 糸、ついてる奴いないよな？

ナン はい

ホク だよな…

川口と江藤は笑吉の部屋に入っていく。

川口 もしかして、これおじさん？

江藤を見て勝代が声を出す。

勝代 あなた、誰？

江藤 え？

江藤と川口は部屋から逃げ出し、奥の部屋を通ると笑吉のところまで走ってくる。

江藤 見えた？

勝代は奥の部屋へと移動する。

勝代 ここに男の人、来なかった？

前田 え、誰も来てませんよ。どうしたんですか？

勝代 向こうの部屋に知らない男の人が入ってきたのよ。二十か三十くらいの

小島 さっき内田さんが言ってた人？

勝代 ううん、別人

前田 気持ち悪いですね。こないだ山手の方で強盗もあったでしょ…人がいるからって安心できませんよ。ちよつと確認してきます

勝代 ありがとう

勝代は部屋から出て行く

前田 行ってこいよ

小島 僕が？

前田 そうだよ、俺は斎藤さん守らないといけないから。ねー？

斎藤 はあ：

小島は見回りに出る。

江藤 どうして見えたんですか？

ホク ン、まああの人は見えるんだよ。霊能者だから

川口 そうなんですか？

笑吉 適当なこと言うな

魂達が江藤の存在に気づく。

魂4 なあ、お前もしかしてバイク乗ってた奴か？

江藤 え？

魂3 そうでしょ？どうしてヘルメット持ってたのよ

江藤 もしかして、あなた達：

魂4 お前のバイクに当たって死んだんだよ！

魂3 私もよ！ようやく就職が決まったのよ！一年間必死でやって！私の気持ち分かる？私の両親の気持ち分かる？

江藤 すみません！すみません！

川口 謝ってんだからいいでしょ！

魂4 謝って何になるんだよ！もう、死んだんだぞ？お前何かできるのかよ！

魂3 私の時間を返してよ！

江藤 すみません、すみません！

川口 もうカンちゃん、謝らなくていいって！

江藤につかみかかる魂達を、ホクトとナント、戻ってきたワルキューレが引き離す。

ワル みんな、やめて！やめなさい！

ナン もう、みんな死んだんですから：やめましょう、争いはやめましょう：

魂達は落ち着きを取り戻す。

ホク ちょっと引き離しておいたほうがいいだろ。ナント、連れてって、思う存分話を聞いてあげて

ナン はい

ナントは魂達を連れて去っていく。ワルキューレとホクトは二人だけ離れて会話を始める。

ワル これで魂は全部？

ホク うん

ワル さっき言ってた人は見つかった？

ホク ううん：

ワル 顔はわかんないの？

ホク 凄い怪我だもん

ワル ：ホクト、ここで探すから大変なのよ。病院からたぐってくればいいんじゃない？

ホク ：ナイスアイデア！それいこう

ワル 笑吉さん、まだ死にたくないってダダこねます？

笑吉 妻と話す方法はないのか？

ワル 頑張ったら動くでしょう

笑吉 それはやった

ホク 霊能者でも呼びますか？

笑吉 ふざけてる場合か！霊が見える知り合いなんて：？そうだ！君達の姿は勝代に見えるんだから、私の言葉を君達が伝えればいいんじゃないか？

ホク あ、ナイスアイデアですね。ただ僕達忙しいんで他の人をお願いします。じゃあ！ワル これ終わったら、絶対に死んでもらいますからね！

ホクトとワルキューレは去っていく。

笑吉 他の人って：

笑吉は江藤を見る。

笑吉 君の姿は見えただよな？

江藤 …はい

笑吉 君の姿が見えて私の姿が見えないということは…死んでいない、死んでいる…なるほど

笑吉は三人をジロジロと見る。

野村 何ですか？

笑吉 私の妻と、話して頂けませんか？

野村 ええ？

笑吉 …あいつは病気なんかなく、さけられない事故ならあきらめもつくが、私の後を追って自殺なんていうなら、死んでも死にきれないでしょ？お願いです、私の代わりに妻と話して頂けませんか？

野村 いや、どうして私が…君達、やってあげたら？

川口 はあ？なんで知らないおばさんと話さなきゃなんないの？絶対嫌！

江藤 僕でいいなら…

笑吉 いや、彼では若すぎる。私の知り合いだと言っても不自然だ。是非ともあなたに…お名前は？

野村 野村です

笑吉 野村さん。私の幼馴染だということにして、妻と話して頂けませんか？小学校が同じだったと言えば妻には分からない

野村 なんて私がそんなことしなくちゃならないんだ

笑吉 自殺かどうかだけ確かめてくれたらいい

野村 そんな、一番難しいじゃないですか。だいたい、自殺以外にも強盗って可能性もありますよ。無言電話かかっているんだから

笑吉 ない！

野村 どうしてですか？

笑吉 考えたくないからだ

野村 …

笑吉 お願いです、あなただけが頼りなんです！

野村 そんなこと言っても…

前田が自伝を開いて斎藤に話しかける。

前田 あー、やっぱり書いてあるんだ。笑吉さんの東京駅土下座事件

斎藤 そののね、最後のところがいいんですよ！

前田 『信頼とは、人が持つ至上の財産である。信頼は人を動かし、信頼は人生を豊かにする。築き上げるには時間がかかるが、それに対する努力を怠ってはいけない』

斎藤 当たり前のことですけど、笑吉さんが書くから説得力があるんですよ

前田 うん。僕達も信頼関係を築いてみない？

野村 そうだ、あなたとは信頼がない。あなたのために動く理由がない  
笑吉 野村さん、お願いだ

野村 ……  
笑吉 わかった、ならこうしましょう。飲みましょう。飲んで、話して分かりあいましょ  
う。ノミニケーション！

笑吉は酒を注ぐ。笑吉は突然しんみりと話し始める。

笑吉 野村さんは…事故で亡くなられた…辛いですね…

野村 ……

笑吉 おいくつですか？

野村 ……五十九です

笑吉 もっとお若いと思っていました。魂の見た目っていうのは、気持ちで決まるらしい  
ですね。お仕事は何を？

野村 ただの会社員です…こんなこといつまでやるんですか？

笑吉 うんと言ってくれるまでです。野村さん、そのカバンに何が入っていました？

野村 何か入ってるんですか？

笑吉 思い出の品が入ってるらしいですよ。ほら、私なんかおもちゃがたくさん。カタカ  
タ忍者に…ほら、懐かしいでしょ。メンコ、ベীগマ

川口 それ、触れるの？

笑吉 ああ

川口はおもちゃで遊ぶため、笑吉と野村のそばに寄ってくる。

野村 思い出ですか…何があるんだろ

野村のカバンには一枚のクリアファイルが入っている。そのファイルには生命保険証書  
が挟まれている。それを見て野村の顔色は変わる。川口が後ろから覗く。

川口 セイメイホケンシヨウシヨ？

笑吉 保険屋さんでしたか。そりゃ、思い入れが深いはずだ

川口はファイルごと取り上げる。

川口 これ三千万！死んだら三千万入るの？

野村 ああ…

川口 三千万あったらさ、カンちゃん何する？

江藤 みんなに配るよ

川口 もう！三千万あったら、一人暮らしして、旅行行って…あれ、写真が入ってる  
野村 え？

野村は川口から写真を奪い取ると、食い入るように見る。川口と笑吉が後ろから覗く。

川口 うわ、若い！これ何年前の写真？

野村 娘が中学に入った時だ：

笑吉 私も見せて下さいよ。これが野村さん、いやー、いい笑顔だ。こちらは奥さんと娘さんですか？

野村 ：私の思い出はこの二つですか。残酷ですね

笑吉 何かあったんですか？

野村 ：どうしてあなたに言わなきゃならないんですか、言えば何か変わるんですか？

笑吉 いや：

野村 私みたいな人間がね、どうして死んでまであなたに協力しなきゃならないんですか？死んでしまえばね、お金も、地位も、人間関係も気にしなくていい。もうやめて下さい！

笑吉 野村さん：そんなこと言わないで。もしやってくれたら：

野村 何ができるんですか？私の人生を、やり直してくれるっていうんですか？

笑吉 できません。しかし、もし私が生きてたら、野村さん、あなたのために全力で行動した。できる限りの恩返しをした！お願いだ、信じてくれ！

川口 いくら頼んだって無駄だよ。結局、おじさんはお金とか権力で弱い人を使ってただけなんだよ。高校の担任がそんな奴だった。能力なくせに偉そうにしてさ！

笑吉 違う！私はそんな奴らとは違う！

野村 残念ですけど、私達は死んだんですよ。死んだら何もできない、それを受け入れましょう

笑吉 ：

江藤 死んだら、何もできない：

川口 そうだって。だからカンちゃん悲しんでも仕方ないって！

笑吉 ：そうだ。野村さん、もしうちの妻と、勝代と話してくれるなら、あなたのことを言ってもらって構わない！あなたが、遺したい言葉を伝えてもらって構わない。御家族に未練があるんじゃないですか？どうです、悪くない話でしょう？

野村 私には、そんな言葉を伝える相手はいない

笑吉 ならどうして写真が出てきたんですか？

野村 ：何を言っても無駄ですよ。お断りします

笑吉 ここまで頼んでもダメですか

野村 ええ：

笑吉 私は：何でもやりますよ

緊張感が走る。

笑吉は野村の写真を掴むと、勝代の前に投げ捨てる。

野村 ああ！

野村は笑吉のおもちやを掴むと同じように投げ捨てる。

笑吉 残念でした、私の姿は見えないんです

笑吉は堂々とおもちやを回収する。そのついでに写真をさらに取りにくい場所に置き直す。

野村 子どもですか！

笑吉 未練がないなら、写真くらいどうってことないでしょ

野村

勝代が立ち上がり、廊下に出ようとする。そこで内田とすれ違う。

内田 お疲れですか？代わりましょうか？

勝代 ううん、ちよっと上に羽織るものないかなって

勝代は部屋を出ていく。

野村は勝ち誇った顔で写真を取りに行く。

内田 じゃあこれ使ってください

野村は慌ててその場から逃げようとするがこける。

勝代 ありがとう、ごめんなさいね

勝代は引き返してくる。

勝代 …誰！

野村 ああ、いや、その…

勝代 泥棒？

野村 違います！あの、それは誤解です！

笑吉 幼馴染。小学校が同じ

野村 私…笑吉さんの幼馴染で野村と申します。小学校が同じで

勝代 …どちらの小学校ですか？

野村 …

笑吉 中谷第二小学校

野村 中谷第二小学校です

勝代 笑吉の家はどういう家でした？

野村 …

笑吉 材木屋だ。職人がたくさんいるような

野村 材木を扱っていて：職人さんがたくさん出入りされてて。小学校の帰りにちよこつと覗いて行ったりね。ハハハ

勝代 ：すみません、失礼しました。今日は変な人が何人も来るもんで。でもどうしてこっつそりと

野村 ちよつとわけがありまして、勝代さん以外にはお会いしたくないもので：

勝代 はあ：お茶でもいかがですか？内田さん！

野村 いやいやいやいや、いいです。どうぞ、このままでお構いなく

勝代 ：

野村 お体の具合はいかがですか？

勝代 ダメですね

野村 え？

勝代 もうあと少しで：こう言っってはなんです、いい時に来られました。主人も喜ぶと思います

野村 ああ、笑吉さんがね。そうじゃなくて

勝代 は？

野村 いや、もちろん笑吉さんの体調も心配ですが：看病で奥様もお疲れだと思ひまして：笑吉さん、奥様の体調を心配されましたから

勝代 最近お会いになったんですか？

野村 ええ、つい先ほど：いや、えー、いつでしたかね：はは、思い出せません。で、体調はいかがですか？

勝代 まあ：疲れてはいますが、健康だけが取り柄なもんで

野村 そうですか？

笑吉 自殺について聞いて下さい

野村 ええっ：

勝代 はい？

野村 いや：旦那さんが亡くなられて：ねえ：悲しいですね：

勝代 そうですね：

野村 亡くなるというのは、悲しいものですが：もし、自殺だったとしたら：

勝代 はい？

野村 だから、その：

す。そこに明広飛び込んでくる。手には描きかけの絵を持っている。野村は慌てて逃げ出す。

明広 ごめん母さん、もうちよつとだけ見せてくれ

勝代 あら、明広、御挨拶：あれ

明広 誰に？

勝代 ：誰だろうね？

明広 ぼけるには早いよ。うーん

明広は絵に集中する。

勝代 おかしいわね：

笑吉 野村さん！いいとこだったのに

野村 私頑張りましたよね？もういいですね

笑吉 いや、もうひと押し：

野村 また行くんですか？写真投げるんですか？絶対行きませんよ！

勝代 部屋で描いてたの？

明広 うん

勝代 何も見ずによく描けるわね

明広 そりゃさっきまで見てたからね

勝代 このお父さん、やっぱり生き生きしてる。なんか：楽しそうな絵ね

明広 そうだよな：なんでだろ

勝代 なんでって、明広が描いてるんじゃない

明広 そんなこと言われても、俺は感じたまんま描いているだけだから

水本が入ってきて明広に話しかける。

水本 あのね、私思ったんですけど、そもそも人っていうのは何なんでしょう？

明広 どういう意味？

水本 笑吉さんが死ぬって言うとき、その笑吉さんって何をさしてるんでしょう？肉体、

書き遺した本、私達の記憶：

明広 なるほど：

智徳が水本を追って部屋に入ってくる。

智徳 水本さん！何話してるの？

水本 え？

智徳 母さん、何か言われなかった？

勝代 ううん、何も。どうしたのよ、智徳？

智徳 ：いや、水本さん、母さんに変なこと言わないかなって：

勝代 変なことって何？

智徳 ならいいけど：兄さん、また絵を描いてたの？

明広 お前、無差別攻撃かよ

智徳 兄さんがやらなきゃならないのは、絵を描くことなの？

明広 ああ、今はそうだ。絵が嫌だっというなら、彫刻にするか？詩にするか？この親父  
なら戯曲にだっとなるぞ

智徳 からかうのやめろよ！まず話をしろよ！謝れよ！

明広 謝る理由、謝ったらどうなるか、考えてます

智徳は掴みかかろうとするが。

勝代 智徳、暴力はだめよ

水本 暴力ハンターイ

智徳 …兄さんは、ほんとに悪くないと思ってるの？

明広 確かに、約束を破ったことは悪かったかもしれない。けどな、こういつちやなんだがお前が後を継いでよかったと思ってるんだ。ちゃらんぼらん俺より、よほど会社のためになる

智徳 そういう問題じゃないんだよ！父さんは、兄さんに後を継いでほしかったんだ！俺じゃない！

笑吉 …

明広 へー、そいつは初耳だな

智徳 だから真面目に聞けよ。どうして俺がヤマモトヤに来たか知ってるのか？

明広 俺が帰ってこないと知って、親父が呼んだんだろ？

智徳 違う。自分で言ったんだ。最初父さんは来なくていいと言った。だから…光科学を辞めたんだ

明広 半導体業界の最大手だろ？ばっかだねえ。なんで辞めたの？

智徳 父さんの気持ち痛みほどわかったからだよ！兄さんがいなくなって、どれだけ父さんが落ち込んだか知ってるの？知ってるわけない！だって兄さんは父さんに会おうともしなかったから

明広は絵を描く手を止める。

明広 智徳。どうして俺達が後を継がなくちゃならないんだ？

智徳 は？

明広 親父は、そんなに俺達に後を継いでほしかったのか？

智徳 何言ってるんだよ。当然だろ？ヤマモトヤは、父さんが人生をかけて作り上げた会社だぞ？父さんはな、骨にガンが転移して、死ぬような苦しみの中、それでも働いていたんだ！

明広 それを俺達に与えたい理由はなんだ？財産としてなら、株だけ譲り受けたらいいだろ。俺達が働く必要はなんだ？

智徳 それは…

明広 お前、何か勘違いしてないか？

智徳 勘違い？兄さんは、俺のやったことが勘違いだって言いたいの？俺が会社を辞めてまで継いだのは、ただのお節介だっけ言いたいのかよ？俺だってな、本当は光科学を辞めたくなかったよ！

笑吉 智徳…

明広 落ち着け、智徳。俺の話聞け

智徳 何だよ！

明広 …

明広は荷物を片づけると部屋から出て行こうとする。

智徳 逃げるのかよ

明広 今のお前に話しても無駄だろ。絵が描けたら、ゆっくり話そう

明広は出て行く。智徳は追いかけてやめようとするが、水本がそれを制止する。

笑吉 智徳、お前は私のために来たのか？私がお前をひきずりこんでしまったのか？

笑吉の体が再び動き出す。

勝代 あなた！

水本 寿々さん呼んでくる

水本は部屋を飛び出して寿々を呼びに行く。

笑吉 すまん、智徳 …

智徳は笑吉の口に耳を近付ける。

笑吉 すまん

智徳 すまん？違うよ、父さん！俺が言いたいのはそのだけじゃない！

水本に連れられて寿々が部屋に飛び込んでくる。寿々が診察を始めると、智徳は部屋を出て奥の部屋に向かう。水本は智徳の背中を見送って、笑吉の様子を見る。

野村 裕福であるが故の苦しみですか

笑吉 智徳は、喜んでヤマモトヤを継いでくれたと思っていた …

智徳は奥の部屋へ移りお茶を飲み干す。

前田 智徳さん、大丈夫ですか？

智徳 …

前田 まあ、ここに座って下さいよ。落ち着いて下さい

前田は自伝をパラパラとめくり、広げる。

前田 智徳さん、聞いて下さいよ。『争い』というコラムです。『争いを避けることが良い

ことだとされる風潮があるが、真剣に人生と向き合った時、争いを避けることはできない。確かに、山から流れ出た岩石が、ぶつかり合いながらその角を削り丸い石になるように、人は生きて行く中で丸さを持たなければならぬ。しかしいくら丸い石となったところで、とがった石とぶつかれば傷つくこともあるのだ。争いが悪なのではなく、争いがどういう形で現れるのが問題なのだ。正しく争える人間は美しい。しかし悲しいかな、正しい争いを覚えるためには間違った争いを数多くしなければならぬのだ。人類の歴史がそうであるように』

智徳：

前田 少しは力になりました？僕じゃなく、笑吉さんの言葉ですけど

笑吉 私が、いなくなるのが早すぎたんだ：私がもう少しそばにいてあげられたら：

野村 自信があつて羨ましい限りですね。あなたが生きていても、息子さんの気持ちに気づきましたか？だいたい私はね、自己啓発本みたいな恥ずかしい物を出している連中が大嫌いなんだ。人に生き方を教えるなんて、自分を神様か何かと勘違いしてるんだ。生き方を指五十年なら五十年、六十年なら六十年、みんな同じだけ経験をしてるんだ。生き方を指図される覚えはない！

笑吉 そんなつもりはない！私の人生が、他の人のお役に少しでも立つならと考えて書いたんだ

野村 私の人生は、人の参考にならないっていうんですか？あなたがいれば、この世の問題は全てなくなるっていうんですか？

笑吉 そういうことを言ってるんじゃない  
野村 みんながみんな、晴れ晴れしい人生ばかりじゃないんだ！あなたは金の為に死を選んだ男の気持ちかわかるのか？あなたは違うというかもしれないが、全力で生きてきたんだ。それでもそんな結末しか選べなかった男の気持ちかわかるのか？

笑吉 野村さん？

寿々 ううん。かわりないわ

勝代 そう：

寿々は勝代を部屋に残し、奥の部屋に移動する。

野村 結局奥さんのことすらわからなかったんでしょ？それが事実でしょ？知りたいのなら、聞いてあげますよ！直接聞けばいいんでしょ？この人を追つて、死ぬ気があるのかって！

野村は勢いよく笑吉の肉体のある部屋へ駆け込む。

野村 勝代さん

笑吉 ちよつと、野村さん！

しかし勝代は野村の勢いをそぐように、柔らかく受け止める。

勝代 あ、野村さん。隠れてらっしゃったんですか？

野村 あ：はい：

勝代 すみませんね、うるさい子供達で。会いたくないんですよ？

野村 ええ：

勝代 ：

野村 ：

勝代 うちの主人と、何があったんですか？

野村 え？

勝代 いいんですよ、慣れっことですから。どうぞ、私におっしゃって下さい。主人にも聞こえていると思いますので

野村 ：ええ：

勝代 お金のことですよ？

野村 ……はい

笑吉 ……？

野村 私は、きちんと生きてきたつもりでした。妻と人生設計を立て、老後の蓄えもしつかり作りながら一人娘を育て上げた。順調でした。大きなトラブルもない毎日の中で、これが幸せなんだろうと思っていました。計画通りに進む人生は、大きなことを望まなかった私に対する御褒美だとさえ思っていた。なのに…。妻が、私に隠れて先物取引つていうのをやっていたんです。私達の貯蓄を使って。老後の資金だと私が思っていたお金は、同じ額の借金になってました。どうにもならなくなって、妻は私に泣きついてきた。借りられるだけ借りてきた借金は、とても返せる額じゃない。娘の結婚が近付いているから、下手な動きもできない

勝代 ……

野村 私は、どうしたらよかったですか？全てを公表し、破産をして、ゼロから残りの人生を乗り越えて行くべきなんですか？それとも…

勝代 ……？主人はどう関係しているんですか？

野村 ……あ：実は…：笑吉さんが私に援助を…

勝代 ほんとですか！…珍しい…この人に、そんな甲斐性があったなんて。この人ね、自己責任？という言葉をよく使うんですよ。失敗する奴は、努力が足りないからだ！真剣にやれば何でもできるって！…そんな主人がお金を渡すなんて…野村さんとは、素敵な御関係があったんでしょうね…

野村 あ：はい：

勝代 わかりました。お気になさらないで下さい！全部、受け取って下さい

野村 え？

勝代 いいんですよ。野村さんが言わなければ、どうせ誰も分からなかったことですから野村 いや、そんなわけ…には…

勝代 私はね、自己責任って言葉、好きじゃないんです。うちの主人は、確かに人一倍努力していました、真剣でした。でも、真剣だっただけじゃここまで幸せになれなかったと思うんです。周りの人に恵まれた、運がよかったからこそその幸せだったと思うんです。

野村さんのように真剣に生きてこられた方に恩返しするのは当然です。だから、受け取

って下さい

野村　：勝代さん

勝代　はい

野村　もし、私に多額の生命保険があり、それで借金を全て返せるとしたら：もしもの話ですよ。死んで清算することを：どう思います？

勝代　そんなことは考えるもんじゃないですよ。奥さんや娘さんが悲しむじゃないですか

野村　そうですね。愚かすぎます

勝代　でもね、うちの主人もそうですから

野村　と言いますと？

勝代　うちの人、ひどい痛みだったのに病院に行かず、突然余命一ヶ月ですよ。これって、命を捨ててお金を稼いでたつてことでしょ？

野村　ええ

勝代　だから、命を捨てて何かをすることを愚かだとは言えません。だってそれは、主人に対する冒流ですから

野村　そうですね：御主人を亡くされたら、勝代さんはどう過ごされますか？

笑吉　：！

勝代　え、私？そうねえ：しばらく、泣くでしょうね：。泣き続けて、何日かして収まったら次は、忘れるでしょうね、とりあえず

野村　忘れるんですか？

勝代　だって、せつかく死んだのに生きてるって思ったら今までと同じじゃないですか。そりや完全に忘れることは無理かもしれませんが、亡くなったら亡くなったで、新しい世界が広がるわけでしょ？楽しまなきゃ。主人がいない世界を楽しんで生きていかなきゃ：ね！

野村　そうですね：（笑う）

勝代　この一ヶ月も、私は良かったと考えるようにしてるんです。この人と今までになかったくらい濃い時間を過ごせましたから。男の人が考えているより、女は強いんですよ。

御心配なく。野村さんの奥さんも、きつとお強いはずです。お二人で力を合わせて、乗り越えて下さい

野村　：ええ：

勝代　そうだ。野村さん、アルバム見て行かれませんか？主人のアルバム！小学校の写真も一枚あったと思います。待ってて下さい

野村　え？

勝代　あ、そうだ。子供達も呼んできますね

野村　ええ！

勝代　黙ってたらわかりませんよ！待ってて下さい！

勝代が部屋を出ると、野村は慌てて部屋を飛び出し笑吉のもとへ戻る。

勝代　アルバムは：あれ、ない。あの人いたらどこ置いたのかしら：寿々、知らない？  
寿々　知らないよ

勝代 あら、斎藤さん  
斎藤 すみません、もう帰ります

前田 いや、まだ面白い話ありますって。勝代さん、いてもらってもいいですよね？

勝代 はいはい。斎藤さん、アルバムどこにあるかわかりませんか？打ち合わせの時、主人と見てましたよね？

斎藤 はい。えーっと：

斎藤は勝代とアルバムを探し始める。

勝代 ああ、智徳、お父さんのところ行って御挨拶してきて

智徳 え、誰に？

勝代 行ったらわかるから！ほら、寿々も

勝代はアルバムを探しに行く。

笑吉 野村さん、ありがとうございます。これで、思い残すことはなくなりました

野村 いえ：私こそ奥さんの言葉で救われました。あんないい人が、どうして死ななくちゃいけないんでしょう！

笑吉 真剣に生きても避けられない運命：

智徳 母さん、誰もいないよ！

寿々 母さん！

勝代からの返事がないので、智徳と寿々は仕方がなく笑吉の前に座る。

笑吉はカバンの中からおもちゃを取り出して遊び始める。それをじっと見ていた野村に笑吉はおもちゃを手渡し、野村も遊びを始める。江藤と川口はその様子を見ている。

笑吉と野村はしばらく遊びにふける。一通りの盛り上がりを見せた後、野村のおもちゃが負けて止まる。

野村 死んじやった：笑吉さん、私は勝代さんと話して初めて分かりましたよ。本当は死にたくなかった。生きていたかったんだって

江藤 すみません！すみません！

野村 いや、気にしないでくれ。あの瞬間、死んでもいいと思ったのも私なんだ：。もし私が君のバイクをよけられていたら、君こそ死ななくてすんだのかもしれない。私のほうこそすまなかった

江藤 僕は多くの人を傷つけたのに、何もできない。もしこの罪を償う方法があるのなら、教えてほしいです

川口 カンちゃん：みっともないよ。やめてよ

野村 君は、多分とてもいい青年だったんだろ？ね。悲しいよ：君みたいな青年が、死ななくちゃならないことが、とても悲しいよ

江藤 僕は：（泣く）

笑吉 泣くな！君は精一杯生きてんだろ！自分の信じる道を歩んできたんだろ！なら泣くな！自分のやってきたことを否定するような涙を流すな！今から…できることを…君ができることを…

笑吉は言葉に詰まる。

ワルキューレとホクトが病院から赤い糸をたどって近付いてくる。

ホク 細いね

ワル うん、繋がってる？

ホク これ、見えない？

ワル ん？あ、これか？

ホク ああ、そんな強く引っ張らないで

笑吉、野村、江藤、川口の集団にホクトは近付いてくる。

ホクトと四人の目があう。

ゆっくりとホクトは四人に近付き、最後に糸を軽く引っ張る。

川口 痛っ！何？

ワル あなたか…。ホクトごめん、私のミスね

ホク ここだ。ものすごく細い。こりや気がつかないよ、普通

川口 何言ってるの？

ワル あなた、生きてるのよ！死んでない！

川口 え…

ホク 糸が繋がってるんだ！病院の先生も助かるって言ってる。君はまだ、生きることができんだよ！

川口 ちょっと、何言ってるの！私死んだんでしょ？早くこの世から消してよ！どこよ？どこに行けばいいのよ！

ホク だから君は生きてるんだ。死んだってのは間違いだったんだよ。消えなくていいんだ。もっと生きることができんだ

川口 はあ？私嫌よ！何で私なの？カンちゃんでも、このおじさんでもいいじゃない！

ワル あなたの体は、あなただけのもの…分かるでしょ？

川口 ちょっとマジ？冗談でしょ？本当に…私なの？

ホク ああ、間違いない

川口 私だけ？

ワル ええ

江藤 えり、よかった。よかったね

川口 私の体、どうなってるの？

ワル だから、助かるんだって

川口 私、顔から落ちた。道路の柵に当たって、グチャって音がした  
ワル …

川口 私、死ぬ。糸、どこにあるの？切れれば死ぬるんでしょ？どうしたらいいの？

川口は狂ったよう頭や体から糸を外そうとする。ナントと魂2、数人の魂が戻ってその様子を見ている。ホクトが川口を止める。

ホク やめなさい。君を死なせるわけにはいかない

川口 なんでよ！私、生きたくない！生きて行く自信がない！。正直に言っつてよ、私の体、どうなってるの？

ワル それは！

ホク 顔はぐちゃぐちゃで、誰だかわからない。何年もリハビリしないと歩けないかもしれない。目も見えないかもしれない

川口

ホク それでも生きて行かないやならないんだ。君は死んではいけないんだ。だって君は生きてるんだから

ワル

川口 どうしてよ！どうして私なのよ、誰が決めたのよ！

ホク 誰が死んで、誰が生きるかは神様が決めることだ。誰にもわからない！

川口 神様が決めただけだから？それだけで生きなくちゃならないの？神様ってどこよ！どこにいるのよ！

魂2 私、死にたくなかった！まだ、やりたいことが一杯あった！。ナントさん、私じゃなかったんですか？生きていたのは、私じゃなかったんですか？

ナン

ワル この子の為にも、あなたは生きなくちゃならない

川口 そんなの私には関係ないじゃない！私は死にたいのよ、死なせてよ！おじさん、わかる？私、バカな事故で怪我したんだよ。顔がぐちゃぐちゃだって。歩けないかもしれないって！それでも、努力すればなんとかなるって言うの？

笑吉 ああ。努力は必ず報われる。私の信じる道だ。君は、それを知るチャンスをもたらしたんだ。ここにいる死にゆく者達の代表なんだ

川口 はあ！信念も、そこまでくると異常だね

ナン 私ね、小さい時に父親に暴力を受けて、死ぬまでずっと寝たきりだったんです。言葉も出せなくて！それでもいいことあったんですよ。私の誕生日。お母さんがハッピーバースデーの歌を歌ってくれるんです。私は生きてていいのかなって毎日思ってたのに、その日だけは生きててよかったんだなって

川口

ナン お母さんにありがとうって言いたい。生きてる時に言えなかった言葉を伝えてあげたい。だから、こうやってお迎えになったんです

川口

ワル そうよ、私達は成仏できない魂。もとは、あなたと同じ人間よ

川口

ホク 生きてたくても生きられなかった人がいる。君には理由にならないかもしれないが、

それが君の生きなければならぬわけだ。君が嫌だと言うなら、無理やりにも連れて行く

川口 生き返っても、すぐに自殺する

ホク それも一つの選択肢だ。否定はしない。だけど、今は生きてもらう

川口 :

江藤 僕が着いて行くことはできないんですか？僕がそばにいてあげること、えりが、少しでも生きる希望を持ってくれたら：

ワル あのね、死んだ先輩として言うけど、あなたが考えてるほど楽なことじゃないわよ。これからの新しい人生で、彼女はあなたを毎日忘れて行く。本当に自殺するかもしれない。新しい恋人ができるかもしれない。また大きな悲しみを背負うかもしれない。でもあなたは何もできないの。見ているだけで何もできないの

江藤 僕は、どうやったら赦されるんですか？何ができるんですか？見ていることしかできないのなら、僕は見ていたい！

川口 やめてよ、カンちゃん。見られたら、自殺できないじゃない。分かったわよ、生き返ればいいんですよ、それから死んでも文句ないんですよ？

ホク ああ

川口 でも一つだけ条件がある

ホク なに？

川口 カンちゃんが消えるのが先。カンちゃんが消えるなら、私生き返ってあげる

笑吉 :

江藤 :それで君が生きてくれるなら、よろこんで僕は消える。ありがとう

ワル いいの：？

江藤 ええ

ワル じゃあ、私はこの子達を連れて行くから、ホクトはその子お願い

ホク おっけー

ワル お別れの言葉は？

江藤 :

川口 いらぬい：早く行ってよ！

江藤 :バイバイ、えり

ワル 帰ってきたら、笑吉さんの番ですからね。ホクト、手伝ってよ

ホク はーい

笑吉 三時でいいよ。いつでもいいんだが、キリがいい。三時にしよう

ワル はあ？いいんですか？奥さんは？す、すぐ帰ってきますから、待ってて下さいね！

ワル キューレは江藤と魂2を連れて急いで去る。

川口 : (小さな声で) バイバイ

ホク 野村さんも、待ってて下さいね

野村 ああ

ホク じゃ、行こうか

川口 ねえ、私の親、病院に来てた？

ホク ああ、いたよ

川口 泣いてた？

ホク 自分で確かめたらいい。ねえ

川口 なに？

ホク 君は、自分を信じたことがある？

川口 :

ホク 君だってね、愛されていていい人間なんだよ。差し出された手を掴んでもいいんだよ

ホクトが手を差し出すが、川口はそれを無視して進む。

ホクトと川口、ナントは去っていく。

野村と笑吉はしばらく無言で座っている。

野村 静かになりましたね：

笑吉 ああ

勝代 斎藤さん、ありがとう

勝代がアルバムを見つけて笑吉の部屋に戻る。

勝代 あれ？明広は？

智徳 来てないよ。お客さんっていうのは？

勝代 いなかった？：そっか。いいのいいの。ほら、お父さんのアルバム

勝代は廊下で明広を呼ぶ

勝代 明広！明広！降りてきて！

野村 こうやって声だけを聞いていると、何でもない朝のようですね。朝食の準備をしながら母親が子供を起こす

笑吉 静かに家族を見守る時間：私にはなかったですね：何もしないことを、私は恐れていただけかもしれない。努力だとか、真剣に向き合っていると、そんな言葉ではなく、私はやりたいようにやっていただけなのかもしれない。思い返すと、あつという間の人生でした：

勝代、寿々、智徳がアルバムを囲んで見る。

寿々 これ、おじいちゃんだよ？

勝代 そうよ。ヤマモトヤが大きくなった時に、帰ってきてね。お父さんと大喧嘩してたわ。商売人は金を儲けるもんだ。お前は甘いつてね。お父さんは聞く耳持たなかったけど

智徳 おじいちゃん、商売に失敗して逃げてたんだろ？

勝代 そうよ。でも、失敗したのは運が悪かっただけなんだって：商売人ってみんなガンコなのよ

智徳 俺も：ガンコかな？

勝代 ガンコよ。明広遅いわね：明広！明広！

寿々 いなくていいんじゃない？またケンカするわよ

勝代 するなら、したらいいの。寿々は気にしすぎ

寿々 だって：

水本が入ってくる。

水本 勝代さん、明広さんがもうすぐ降りるから静かにしててって

勝代 そう

水本 私、おやつ休憩頂いてもいいですか？

勝代 まだこんな時間よ。早いんじゃない？

水本 え、もうすぐ三時ですよ：あ、この時計くるってる

勝代 え？

寿々が時計で確認する。

寿々 ほんとだ。もうすぐ三時だ

智徳 見せて

智徳が寿々の時計を頼りに時計を直す。時刻はぐっと三時に近くなる。

その光景をあげんと見ていた野村と笑吉はどちらからともなく笑いだす。

笑吉 こいつは一本取られましたね。人生とは思いつみの連続である

野村 ですね

笑吉 三時に死のうと覚悟しても、見ていた時計が間違っている。私は愚か者なのか？

野村 愚かである。しかし、あなただけではない

笑吉 御名答

水本の携帯が鳴る。

水本 まただ。何よ、この番号

智徳 知らない人？ほんと、何かおかしくないか？出るなよ

水本 うん

笑吉と野村の近くを今村が電話を耳に当てながら通り過ぎる。

笑吉 携帯電話とダンボールが、思い出の品なんですかね？

野村 さあ：この世界でも使えるんですかね？

小島が後ろから今村を尾行する。

笑吉 小島、何してるんだ？

野村 あの霊が見えるんですかね？

考え込む二人。

野村 あ、あの人、人間だ！

笑吉 こんなところ、猫か雀しか通らないぞ

智徳 しつこいな。切れよ

水本が電話を切ると、今村は憎たらしい顔をする。

笑吉 まさかこいつ？

野村 無言電話の男だ！

笑吉 小島行け！犯人だ、捕まえろ！

小島は今村に襲いかかる。

小島 さっきからお前、何探ってたんだ！

今村 え、え？

段ボールがあき、中から新聞紙に包まれたトウモロコシが落ちてくる。

小島 なんだこれ、爆弾か、包丁か！ちよつと来い！

小島はトウモロコシを拾うと今村を家の中に連れ込んで行く

笑吉 小島、でかした！あっぱれだ小島！

今村は家の中に連れ込まれて奥の部屋に放り込まれる。騒ぎを聞きつけて部屋には人が集まってくる。

小島 前田さん、捕まえましたよ。こいつが犯人。ずっと家の周りぐるぐるまわってたんです

今村 だから何のことですか？

小島 とぼけるな！さっき誰に電話してたんだ？

小島はリダイヤルで笑吉の携帯を鳴らす。

水本 あ、さっきの番号だ。無言電話の人？

前田 お前、どうして笑吉さんを脅迫するんだ？

今村 笑吉さん？山本笑吉さんですか？

小島 下手な芝居すんなよ！こんな運送屋の恰好までしてさ

今村 運送屋です！ラピート運輸の今村です！笑吉さんにお届け物です。サイン頂けますか？

小島 しつこいって、運送屋が何を持ってきたんだよ！

新聞紙を小島ははがす。もちろんとうもろこしが出てくる。

水本 焼トウモロコシ！

潮が引くように前田や斎藤達は次々と部屋から出て行く。小島はどうしようもなくなつて勝代に泣きつく。

小島 おかみさーん

勝代 はいはい。すみません、うちの者が失礼しまして。新人さんですか？

今村 すみません、だいぶ迷ってしまいました

勝代 ここに来るのに迷うって、これから大変でしょうけど、頑張ってくださいね

勝代のサインをもらうと今村は出て行く。

勝代 どうして勘違いなんかしたの？

水本 朝から笑吉さんの携帯に、変な電話がかかってたから

小島 勝代さんも変な人見たって言ってましたし。ちようど怪しい奴がいたもんで…すみません

勝代 そう。でも誰かしらね…電話の相手

水本の携帯が鳴る。

水本 あ、公衆電話！今度こそ！

勝代 ちよつと貸して。もしもし？

相手は無言。

勝代 誰？話して下さいさる？…私は笑吉の妻です…もしもし、もしもし…

勝代は一人笑吉の部屋に行く。数人は笑吉の部屋の入り口で盗み聞きをする。

勝代　：もしかして、あなた笑吉と？：ふふふ、妻ですから。たぶん、あなたは：マリちゃんじゃない？わかるのよ、年をとればそれくらい。近くに来てるんでしょ？来なさいよ、笑吉はもうすぐ死ぬの：嘘じゃないわよ。見に来なさい。：：：何でって？あなたの中でも死んでほしいからよ。今までの事は許しても、あなたの中でこの人が生き続けることは許さない。必ず来て下さい。じゃあね

勝代は電話を切る。

野村　凄く奥さんだ

笑吉　ははは、はははははは！

笑吉は大きく笑う。

笑吉　早く逝かせてくれー！

明広　完成した絵を持って降りてくる。明広は勝代に話しかける。

明広　あれ、みんな何してるの？いやー、ようやくできたよ。色鉛筆だけどさ、なかなかいい出来だろ

勝代　ほんとだ。お父さん、生きてるみたいね

明広　そう、それ、ようやく分かったんだよ。

勝代　何が？

明広　芸術ってのはさ、出来てみないとわかんないんだよ。どうしてそう感じているのか。それを知るために作るんだ。俺の感じていた疑問。この絵が完成してようやく解けた

笑吉　：  
明広　俺は、親父が死ぬことが悲しくないんだ。いや、むしろ誇らしいことだとさえ思っている

智徳　兄さん！

明広　だから落ち着けてお前は。おーいみんな、こっち来いよ！水本さんも内田さんも！

家中の人間が笑吉の部屋に集まる。

明広　みんな、聞いてくれ。俺はバカだって言われてもいい。でもあえて言う。親父は、死んで泣いてくれなんて思っていない

笑吉　：

明広　そりゃ近くににいる人間が死ぬことは悲しい。涙を流すなって言ってるんじゃない。親父の死を、もっとポジティブに受け取ってくれないかな？水本さん、俺はさつき生きてることは何だって言った？

水本　変化だって

明広 そうだ。生きてることは変化だ、そして死は変化が止まることだと思う。でも一つ間違ってたんだよ。死は変化が止まることだけどき、死にゆく今は、一番の変化なんだよ！今死にかけてるこの親父は、一番生きてるんだよ！生きてるから俺らが集まり、生きてるからみんな感動するんだ。みんなさ、もっと話してくれよ！死ぬなんて言わないで、この親父と最後の時間を生きてくれよ！

集まった面々は、一瞬黙りこむ。

小島 そんなこと言っても：何をすればいいってこと？

前田 例えばさ、今日ここに来たから斎藤さんと出会えたじゃない？斎藤さんと話をするってのも、笑吉さんと生きてるっていうことなのかな？

明広 そうかもしれない

斎藤 私が見なさんとお話することも

明広 そう！

小島 新しいおもちゃの案を、今日来た人に聞くんというの？

明広 いいよ！やってよ！親父はそういうの大好きだったもん！

水本 私がこの家に来たのも、笑吉さんのおかげですよ

明広 いい思い出できた？

内田 悪夢です

どつと笑いが起こる。部屋は途端に和気あいあいとした空気になる。

野村 御当人は、どうですか？

笑吉 ふふ：

野村 当たってますよね？

笑吉 明広が言うとは：

野村 意外でしたか？

笑吉 :

水本 やっぱり、私言います！

智徳 ?

勝代 何言うの？

智徳 水本さん！

水本 笑吉さんが生きてる間に、言わなきゃいけないと思う。勝代さん、笑吉さん、私、

智徳さんと結婚します！

勝代 :え？

智徳 :

水本 お腹に赤ちゃんがいます！まだちっちゃいけど

勝代 ええ！智徳：あんたって：やっぱり山本家の男だわ

智徳 ごめん

勝代 いいわよ、麻美ちゃんなら安心だ。笑吉に代わって私が許します！

拍手が沸き起る。

明広は気づかれないように智徳に部屋を出るように言う。

明広　：寿々は少し後で来てくれ

寿々が不審がるが、勝代が止める。明広と智徳は奥の部屋へ入る。

明広　お前もやるときややるんだな。感心した

智徳　兄さんほどじゃないよ。口先だけであれだけの人を動かすとい

明広　あれだけって、十人もいねえじゃないか。芸術家ってのは人の心を動かすのが仕事だ。医者か風邪ひきを治して凄いなと思うか？

智徳　そういう言い方が嫌味なんだよ

明広　せっかくの俺のいい話が、お前の結婚で台無しだ。弁償しろよ

智徳　俺が言ったんじゃないよ

明広　ふふ。ま、結婚おめでとう

智徳　：珍しいな、そういう言葉

明広　さっきは悪かったな、謝ってやれなくて

智徳　どういう意味だよ

明広　ちゃんと考えたんだよ。俺は、言葉を大切にしたい。心に思っていない事は言うことができない

智徳　今は謝れるっていうの？

明広　ああ。ただ、親父の前は勘弁してくれ。そんなことで親父が喜ぶとは到底思えない。

ここで謝ってもいいか？

智徳　俺のために謝るって言うんだろ

明広　お、わかってるな。ただ付け加えて俺のためでもある

明広は壁の向こうの笑吉に向かって床に正座する。

明広　親父が死ぬまでに、俺は、俺の納得できる自分になれなかった。親父、すまん  
笑吉　：

明広はすくと立ち上がる。

智徳　それだけ？

明広　ああ、それだけだ。満足したか？

智徳　満足したかって：それ以上絶対謝らねえだろ

明広　ああ

智徳　兄さんは、ほんと父さんに似てるよな。凄いな

明広　お前は、俺を大きく考えすぎだ。本当に卑屈だな

智徳 卑屈にもなるよ。何でもできるあんたを見てきたんだから  
明広 なんでもできるんなら、悩まないよ。俺はな、自分の生きる場所すら見つけられて  
ないんだ

智徳 ヤマモトヤの天才おもちや職人でいいだろ

明広 みんなそうは思わない。山本笑吉の息子、それだけだ

智徳 兄さんも結局それが嫌だったのか

明広 同じにすんな。それが嫌なんじゃない。それだけってことに納得できないんだ。息  
子という言葉に打ち勝つ俺自身ってのがないからな

智徳 勝てる見込みあんのかよ

明広 さあな。ただ、勝ったと決めるのも俺だからな。結果は俺にしかわからない

智徳 自己中心的。それも父さんに似てるな

明広 お前だってな、親父に似てんだぞ

智徳 どういうところ？

明広 親父の秘書をはらませたってところ。俺にはとてもできねえ

智徳 言わないでくれよ。父さんはそこまでひどくないぞ

明広 いや、相当女好きだぞ、お前知らないのか？

智徳 適当に言ってるだろ？

明広 バカ、俺達誰の子供だ？お前の性格も、俺の性格も、二人から半分ずつとってんだ  
よ。母さんが男漁ってるように見えるか？見えないだろ？なのに俺達は女好きだ。つま  
り親父はその二倍女好きだってことだ

智徳 妙に説得力あるな

明広 お前の卑屈なところも、親父かもしれないぞ

智徳 そんなはずないだろ？

明広 なら母さんか？

智徳 どっちでもなくて、俺が卑屈なんだよ

明広 ほんとに卑屈だな。嫌なら捨てるよ、その性格。どちらにももらったんでもないなら  
捨てるいいだろ

智徳 そんな簡単に捨てられるかよ

寿々が部屋に入る。

寿々 どうせまたケンカしてるんでしょ？

明広 してねーよ

寿々 ほんと？

智徳 珍しくね

寿々 ならもうしないでよ。お母さん、傷ついてんだから

明広 なぜか俺達正直になれないんだよな。ただ、俺は言ったぞ。今度は智徳が言う番だ

智徳 あ、だから寿々に後でって：卑怯者！

寿々 え、何？

明広 卑怯で結構。お前の番だ。結局さ、ヤマモトヤに入ってお前はどう感じてるんだ？

智徳 :

明広 俺の意見はさっき言った通りだ

智徳 継いでほしいと思っただのは、勘違いだったってことか？

明広 もう一つある

智徳 なんだよ？

明広 お前が継いでくれたことを、親父は喜んだと思う

智徳 :(涙ぐむ)

明広 ついでに言うと、俺も嬉しかった。出て行く時は勢いで言っちゃったけどさ、五年は短すぎたんだ

智徳 なんだよ、それ:

明広 だが、それはそれだ。お前が嫌なら、今すぐにやめろ。親父も絶対に同意見だ。

知ったような顔で何か言う奴がいたら、ぶん殴ってやれ

智徳 : 俺が、ヤマモトヤに就職しなかったのはさ。もちろん父さんがいたからだ。兄さんの言う通り、卑屈なだけかもしれないが、俺では絶対に親父に勝てない。だから光科学に入って直接対決から逃げたんだ

明広 なのに仕方がなく帰ってきた

智徳 結局は来てよかったんだと思う。父さんは凄いい、でも本当の凄さはわかってなかったんだ。ヤマモトヤで力の無さを思い知らされて、俺は必死で父さんを追いかけた。仕方なくきたのは本当だよ。でも、俺をここまで引つ張れたくれたのは父さんだと思う。だから、今は素直に感謝できる

笑吉 :

智徳 水本さんに会えたのも、父さんのおかげだしな

明広 親父が死んでも、辞めないのか？

智徳 ああ、辞めない。兄さんにいいこと教えてやるよ。変化だけが生きてるってことじゃない。同じ場所に留まっていれば、力が貯まるんだ。俺はヤマモトヤで力を貯めてきた。父さんを超えるような力をだ

明広 へー、面白い考え方だな。何かするのか？教えてくれよ

智徳 老人向けのおもちやを作るんだ。これからの日本、夢を与えなくちゃならないのは子供だけじゃない。老人にも夢を持ってもらわないと。生きて行こうっていう希望を持つてもらわないと！どうだ、違うか？

明広 さあな。でも、お前はいけると思ってるんだろ？なら、頑張ってみろよ

智徳 それで、これは今思ったんだけど: 兄さんにそのデザインをしてもらいたい

明広 は？なんでやらなきゃなんねんだ？デザイン担当: 小島とかいるだろ？

智徳 これは父さんを超えようとする仕事だ。兄さんと一緒にやりたいんだよ。昔からいる連中は、みんな兄さんが天才だとわかってる。俺が説得するから、今回だけ手伝ってくれ

明広 嫌だよ

智徳 どうせまともな収入ないんだろ？バイトだと思ってやってくれよ

明広 うるさいな: まあ考えとくよ。ただ勘違いするなよ。もし今回手伝っても、ヤマモトヤに戻る気ないからな

智徳 わかっているって。デザインさえしてくれたら、しばらく帰ってこなくていいよ  
明広 はは、でも心配もしてるんだぞ。親父が死んで、母さんは大丈夫かなって…  
寿々 それなんだけど…

明広 どうした？  
寿々 お母さん、実はこないだの健康診断で引っ掛かったの。動脈瘤がね、頭の中にあるんだ

智徳 それ、どれくらい危ないんだ

寿々 ほっといたら…どうだろ、二十パーセントくらいかな、一年で死ぬ確率。手術だと成功する確率が八十パーセント

明広 それで母さんは？

寿々 手術は受けないって。分かるのよ、その気持ちも。動脈瘤が見つかったても、破裂しない人もいるわけだし…誰に手術してもらっても百パーセント助かるわけじゃない

笑吉 ……

明広 寿々はどう思うんだ？

寿々 私は、医師として…手術してほしい。でも、お母さんの同意なしにできないし。お母さんは誰にも言うなって言うし…もうどうしたらいいのか…

明広 どうしたらいいのかって、決まってるだろ。なあ、智徳

智徳 まあな

寿々 どうするのよ

智徳 妹の頼みを聞けない兄がいるか？母さんを説得してやるよ

明広 そういうこと。山本家の男は、お節介だからね

寿々 ありがとう

智徳 寿々、アメリカに行くって計画はどうするんだ？

明広 何、それ？

智徳 寿々、アメリカで研究したいって言うんだ。父さんがこんなだから中止にしてたのに…母さんもそれじゃあなあ

寿々 うん。しばらくここに残るよ。タイミングが悪かったんだと思う。アメリカは、なくなるわけじゃないし、状況が変わったら気持ちも変わるかもしれないし

智徳 そうか

明広 こういう日は、俺達子どもだってこと思い知らされるよな。夢を追いかけてたり、夢を与えたり、人の為に尽くしたり。親父と似てる部分に母さんがトッピングされてさ、

俺達がここにいる

寿々 当たり前じゃない

明広 俺達は、生きてるよな

智徳 当たり前だろ

明広 なんだよ、お前ら！ちよつとは…ちよつとは、芸術ってもんを理解しろよ、バカ！

明広は部屋を出て、勝代のもとへ向かう。

智徳 俺達も戻るか

周囲と談笑していた斎藤が、入ってきた寿々を見つめる。

斎藤 あ！寿々さん！できました！あおり文句！  
寿々 え、なにになに？

明広と智徳、部屋の人間が注目を寄せる。

斎藤 『信念を持ち、全力でぶつかれば、人生は一本の道となる』。どうですか？  
勝代 いいでしょ？  
寿々 うん、この人っぽい

部屋はまた談笑に戻る。

野村 奥さんのこと、わかりましたね

笑吉 ええ

野村 私から、手術を受けるよう伝えましようか？

笑吉 いえ、いいです。手術を受けたところで助かるかもわからない…。何を選択するにしても、私が出る幕じゃない。勝代が決めた選択、子供らの説得。それが勝代の将来になる。あいつらは、今まで通り精一杯生きていくだけです。そこに私はいない。でもあいつらの中に、私は確かに生きている

野村 …

ホクトとナントが現れる。

ホク 野村さん、お待たせしました。じゃあ、行きましようか

野村 なあ、ホクトさん、私の家族を見に行かせてもらえないか？

ホクトとナントは顔を見合わせる。

ホク いいですよ。これだけ待ってくれたんですから。でもどうして？

野村 悔しいんですよ。見せつけられっぱなしだと

ワルキューレが現れる。

ワル え、もう三時！笑吉さん、行きますよ！

笑吉 はい

ワル だからもうわがままばっか！…え？いいんですか？

笑吉 どうぞ連れて行ってください

ワル どうして？ほんとにもう、ダダこねません？

ホク 野村さん、行きましよう。ワルキューレ、今度お返しするよ  
ワル あんたに何ができるのよ！

野村 笑吉さん、ありがとうございます。今生の別れですな  
笑吉 ええ。お気をつけて

ホクトとナントは野村を連れて出て行く。

ワル 笑吉さん、奥様のことはいいんですか？

笑吉 ええ

ワル 解決したんですか？

笑吉 私が留まる必要ないんです。神様に決められた通り、私は退場します。私がいなくなることで、できたことができなくなり、できなかったことができるようになる。そして、新しい何かが始まる

ワル はあ：

笑吉 ただじめに、一言だけ伝えてもいいですか？

ワル いいですよ。まだ寿命は残っているみたいですから

その時、笑吉の異変を寿々が感じ取る。脈を取り、それが確信に変わる。

寿々 お父さん！

部屋にいる面々が口々に笑吉の名前を叫ぶ。ワルキューレが笑吉の腰についている糸を見る。

ワル どんどん細くなってる：寿命です。笑吉さん、伝えるなら早く！

笑吉 ああ。みなさん！みなさん！

勝代 あなた、何？

笑吉 集まってくれたみなさんに：ありがとうと

勝代 みんな、集まってくれてありがとうって

笑吉 寿々

勝代 寿々

寿々が笑吉の言葉を聞き取る。

笑吉 迷惑をかけたな。ありがとう。いい医者になれよ

寿々 うん：お父さん：

笑吉 智徳

寿々 智徳

笑吉 お前は、お前の人生を生きる。お前の力を信じる。ヤマモトヤに来てくれてありがとう

智徳 親父：

笑吉 そして、子どもを大切にな

智徳 (笑って) うん：

笑吉 明広を

智徳 え？兄さん？

笑吉 色々やってるようだが、それを全てお前の未来につなげる

明広 え、何？何て言ったの？

笑吉 明広、明広！

笑吉の体は寿命を迎え、言葉が届かなくなる。

明広 何？親父！何て言ったの？親父！ちよつと待ってくれよ！  
寿々 お父さん！

笑吉は腰についていた糸を引きちぎる。瞬間、勝代の眼には笑吉の姿が見える。

勝代 あなた！

笑吉 勝代、明広に、お前は俺のまぎれもない自慢の息子だと伝えてくれ。そして息子であることを堂々と名乗れるよう、自分を磨きあげろと

勝代 明広、お父さんが、あなたは自慢の息子だって：笑吉の息子だって言えるように努力しろって：

明広 親父：

笑吉 勝代、さらばだ！

笑吉は、部屋から姿を消す。

勝代 あなた、あなた！

部屋の面々は笑吉が亡くなったことを悟り、涙する。

ワル 奥さんに：それだけでいいんですか？

笑吉 ええ

ワル お荷物、置いて行きませんか？

笑吉はふと、カバンを置いて行こうかと考えるが。

笑吉 いや、全部持っていこう

ワル じゃあ、行きますか

笑吉は立ち止まる。じっと空を見ている。

ワル どうされました？  
笑吉 今日は、死ぬにはいい日だ

ワル キューレは微笑むと、先導する。笑吉も後に続く。  
部屋では泣き声が一通り収まる。  
寿々が笑吉の肉体を確認する。

寿々 十五時零分。御臨終です

時計が三度鐘を打つ。

了